参考資料2

日高自動車道（静内～三石）

第１回　説明資料

令和元年１２月１１日

国土交通省　北海道開発局

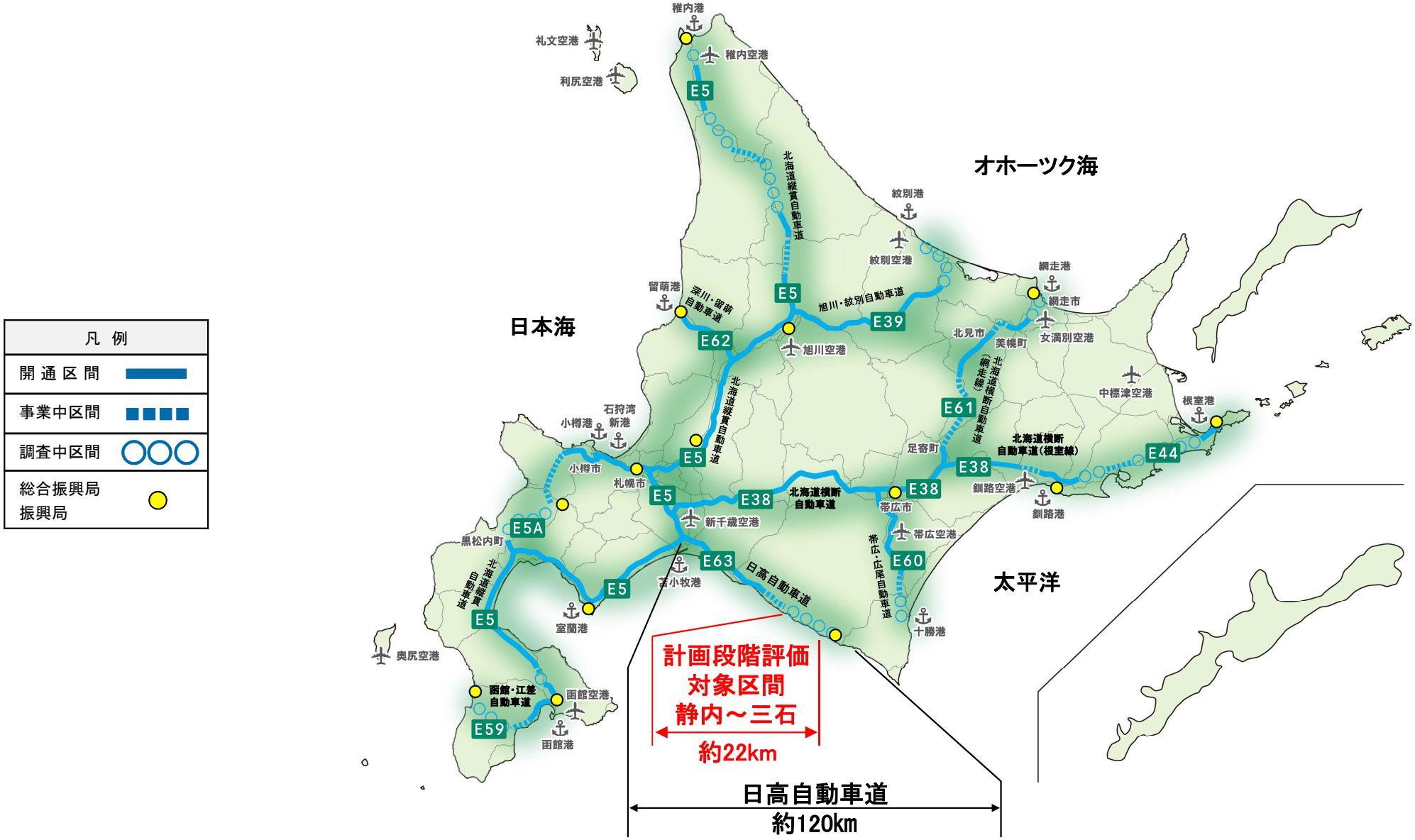
目　　次

１．計画段階評価の検討の流れ
２．地域の概況
３．地域の状況と課題
４．道路の状況と課題
５．課題の整理
６．意見聴取方法

１．計画段階評価の検討の流れ

1-1） 北海道の高規格幹線道路網

○日高自動車道は、苫小牧市を起点として厚真町、むかわ町、日高町、新冠町、新ひだか町を経由し、浦河町へ至る延長約120kmの一般国道の自動車専用道路で、静内～三石間はその一部区間。
○当該区間は、苫小牧市～浦河町間のうち、新ひだか町静内～新ひだか町三石間の延長約22kmの区間。

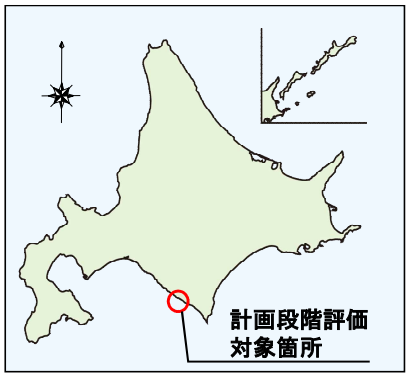


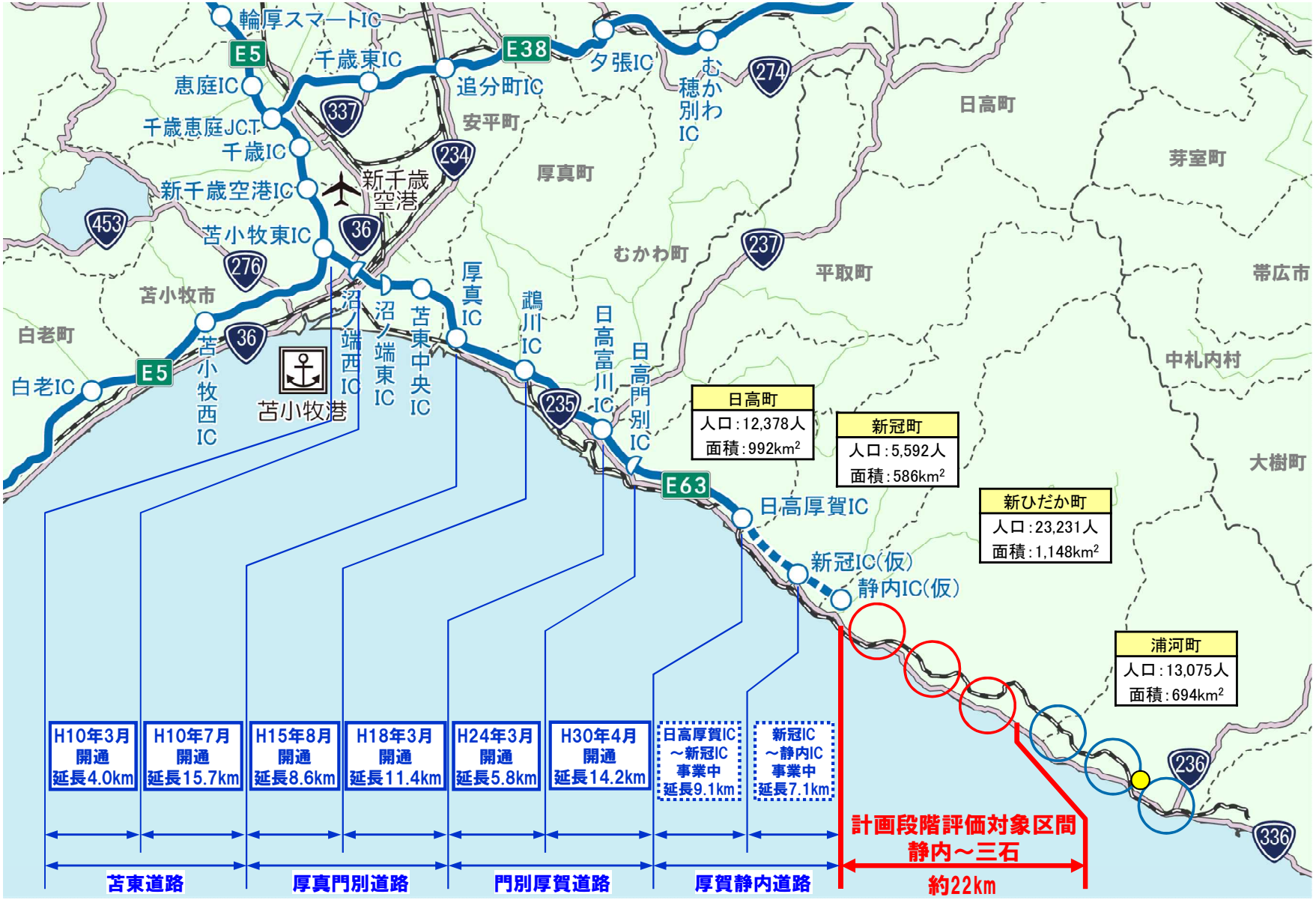
1-2） 日高自動車道の進捗

○日高自動車道は、苫小牧東IC～日高厚賀IC間が開通済み（日高厚賀ICは平成30年4月開通）。
○日高厚賀IC～静内IC（仮）間は早期開通に向け、現在事業中。

凡 例	
開通区間	■■■
事業中区間	■■■
調査中区間	○○○
総合振興局 振興局	●

▼位置図

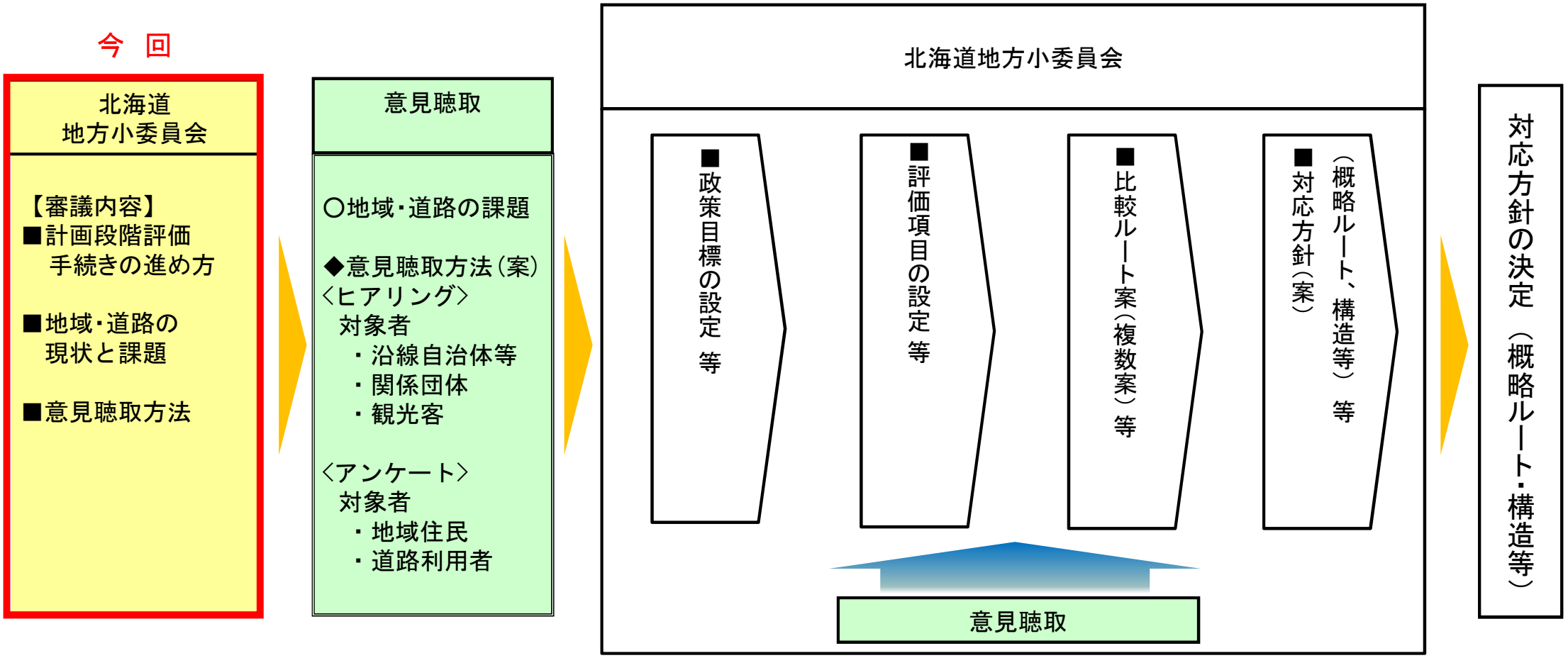




資料：人口は平成27年国勢調査（総務省）、面積は平成30年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

1-3） 計画段階評価手続きの進め方

○地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画〔概略ルート、構造等〕について検討を行う。



※各段階で随時自治体と調整

北海道地方小委員会

２．地域の概況

2-1） 地域の概況（土地利用）

○日高地域は、北海道の中央南部に位置する日高山脈を背後に、太平洋に面した地域。
○内陸部には、我が国最大の国定公園「日高山脈襟裳国定公園」を有し、雄大な山岳景観が広がるほか、海岸沿いの平地部では、市街地や農用地が広範囲に分布。



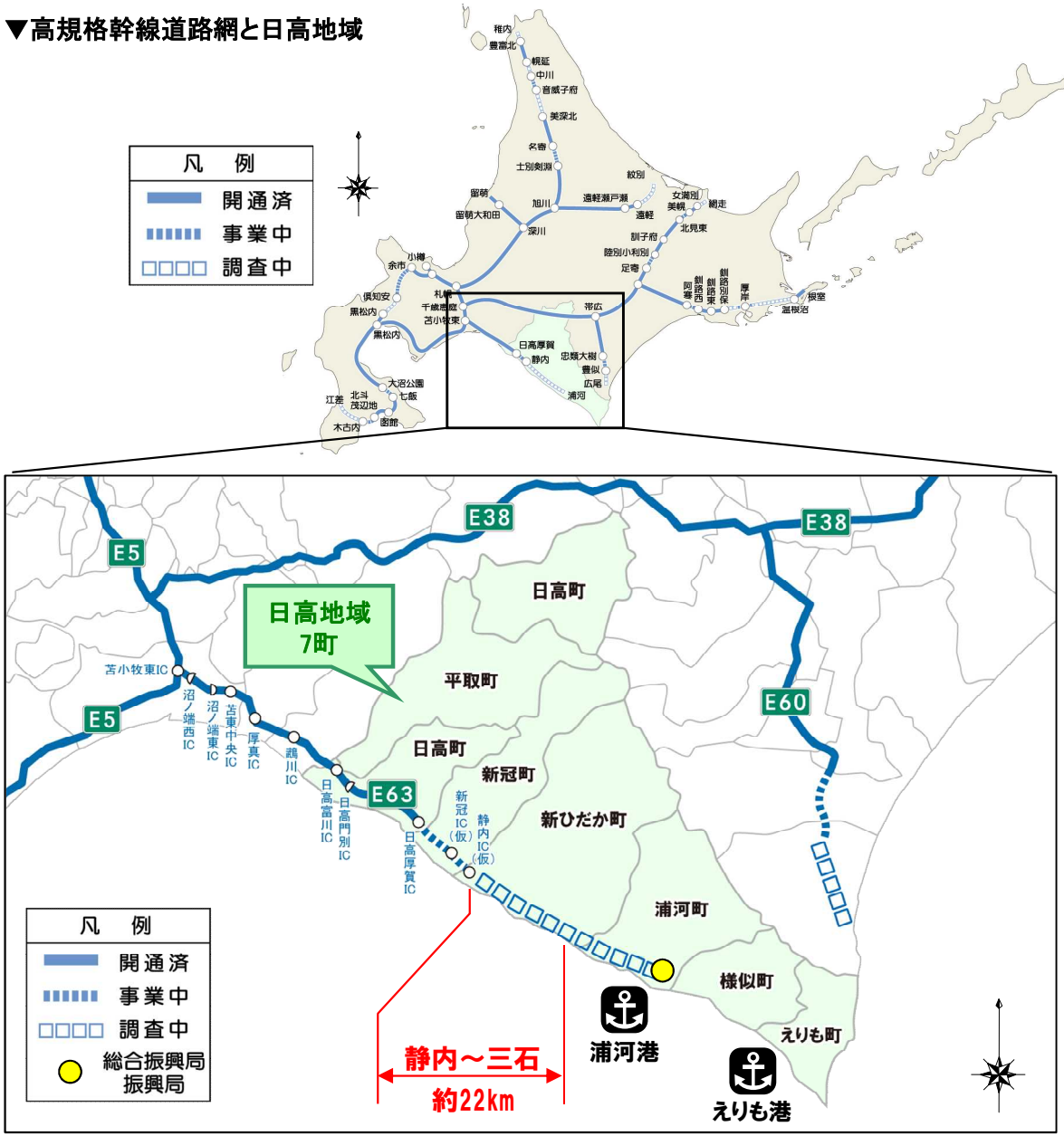
注：「市街地」は都市計画決定された工業専用地域を除く用途地域
注：「農用地」は湿田・乾田・沼田・蓮田及び田、麦・陸稲・野菜・草地・芝地・りんご、梨・桃・ブドウ・茶・桐・はぜ・こうぞ・しゅろ等を栽培する土地
注：「山地」は山地・丘陵または台地の縁などの傾斜地（国土交通省国土地理院地形分類より参照）
資料：「市街地」は「国土交通省国土政策局の国土数値情報（用地地域データ）をもとに加工　http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A29.html
「農用地」は「国土交通省国土政策局の国土数値情報（土地利用細分メッシュデータH26年度）」をもとに編集・加工　http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-L03-b.html

©NTT空間情報株式会社

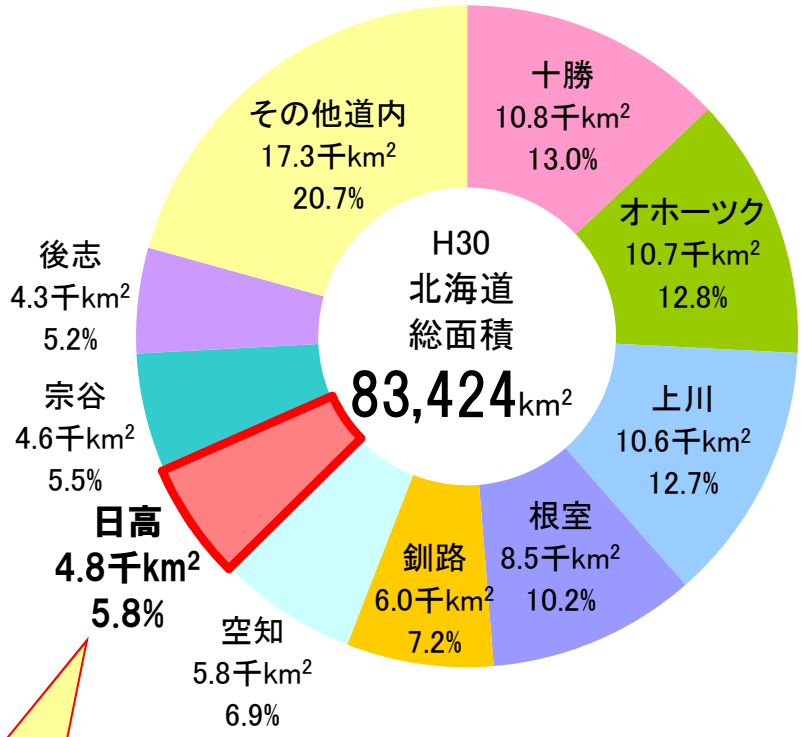
2-2） 地域の概況（面積）

〇日高地域は、北海道の中央南西部に位置し7町で構成され、地方港湾である浦河港、えりも港を有する。
〇総面積は 4,811km²、全道の約6%を占める。

▼高規格幹線道路網と日高地域



▼振興局別面積割合



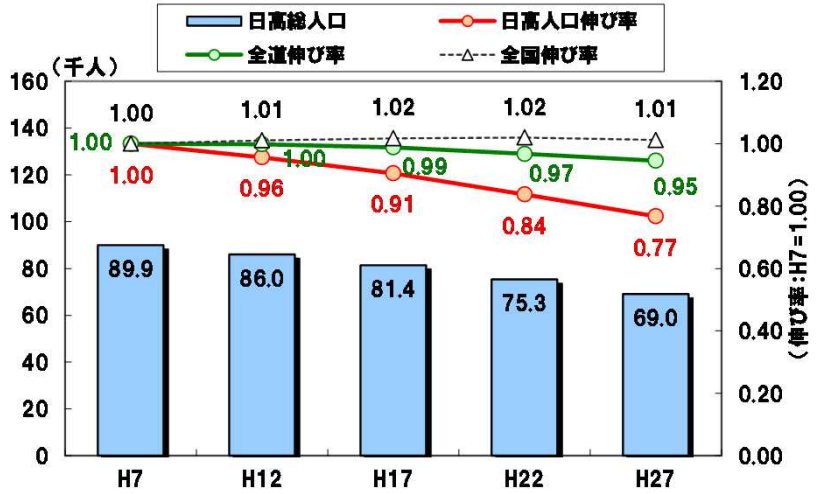
日高地域は全道面積の6%を占める

資料：平成30年全国都道府県市区町村面積調（国土地理院）

2-3） 地域の概況（人口）

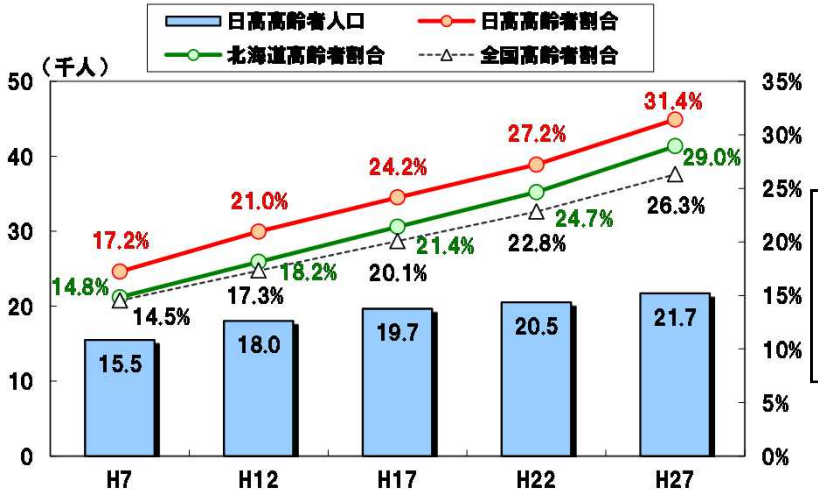
○日高地域の総人口は約7万人で、そのうち約3割（2.3万人）を新ひだか町、約2割（1.3万人）を浦河町が占める。
○全国と比較すると人口減少が著しく、高齢者割合も全国平均を上回る水準で高齢化が進行。
○全国と比較すると、特に20代～40代の若い世代の人口割合が低い状況。

▼総人口の推移



資料：平成7～27年国勢調査（総務省）

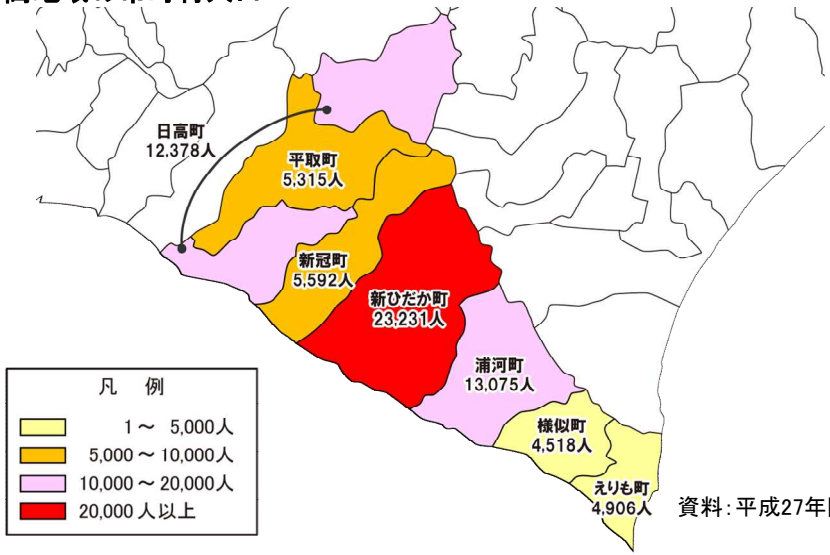
▼高齢者人口の推移



注：高齢化について
WHOや国連によると、
65歳以上人口の割合が7%超で
→「高齢化社会」
65歳以上人口の割合が14%超で
→「高齢社会」
65歳以上人口の割合が21%超で
→「超高齢社会」

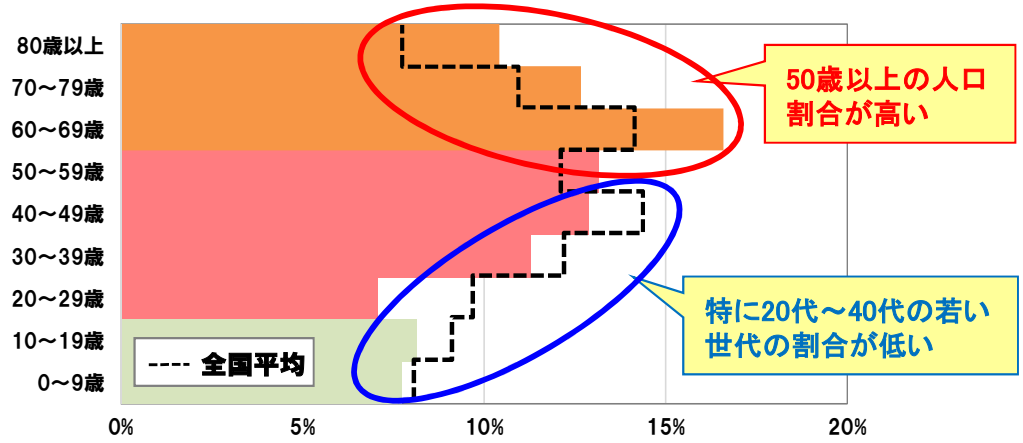
資料：平成7～27年国勢調査（総務省）

▼日高地域の市町村人口



資料：平成27年国勢調査（総務省）

▼日高地域の年齢別人口構成

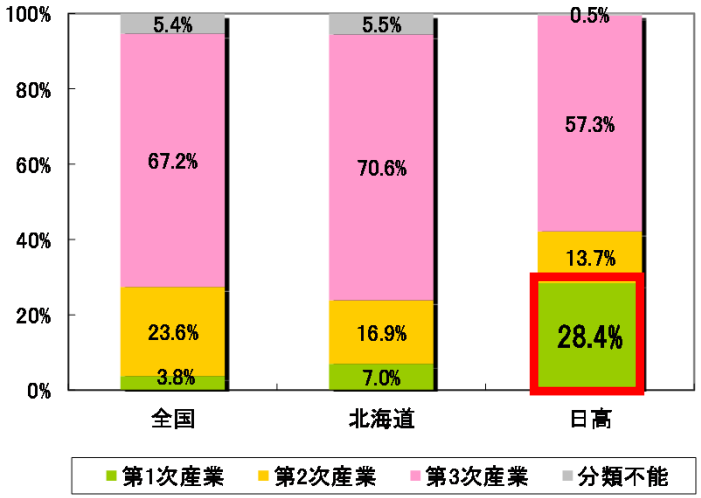


資料：平成27年国勢調査（総務省）

2-4） 地域の概況（産業）

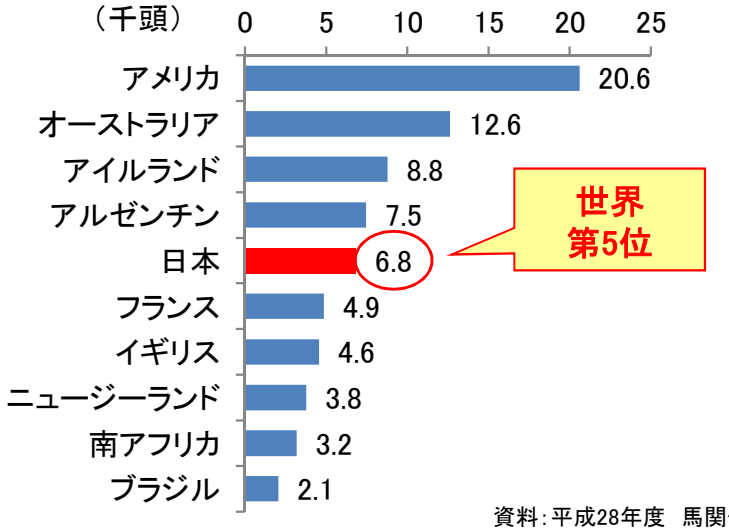
〇日高地域の産業は、全国や北海道全体と比べ、第1次産業の割合が高い。
〇特に軽種馬は、全国生産頭数の約8割を占め、世界第5位の生産規模を誇る我が国最大の軽種馬産地。
〇また軽種馬を含む畜産業は、日高地域の農業産出額の5割以上を占め、畜産業は日高地域の重要な基幹産業となっている。

▼日高地域の就業人口割合



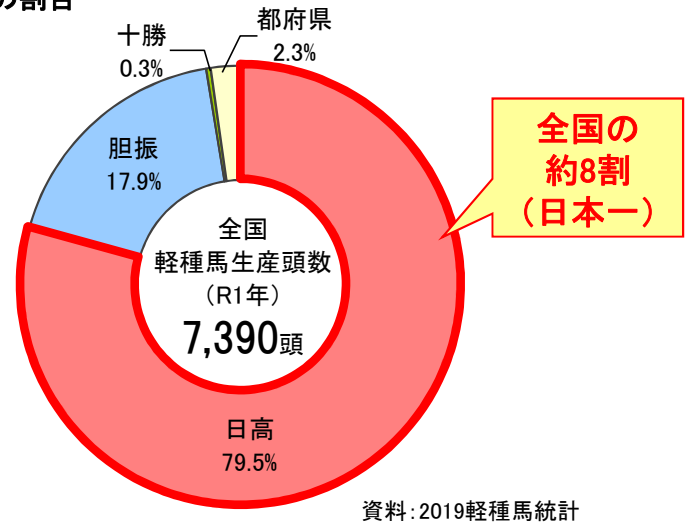
資料：平成27年国勢調査（総務省）

▼軽種馬生産頭数の世界ランキング



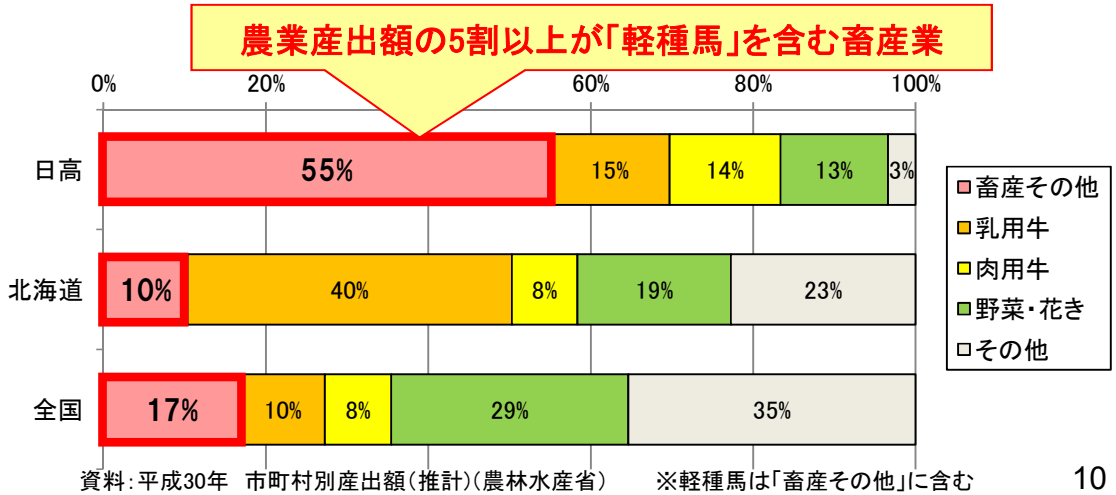
資料：平成28年度　馬関係資料（農林水産省）

▼軽種馬生産頭数の割合



資料：2019軽種馬統計

▼農業産出額に占める畜産業（軽種馬を含む）のシェア

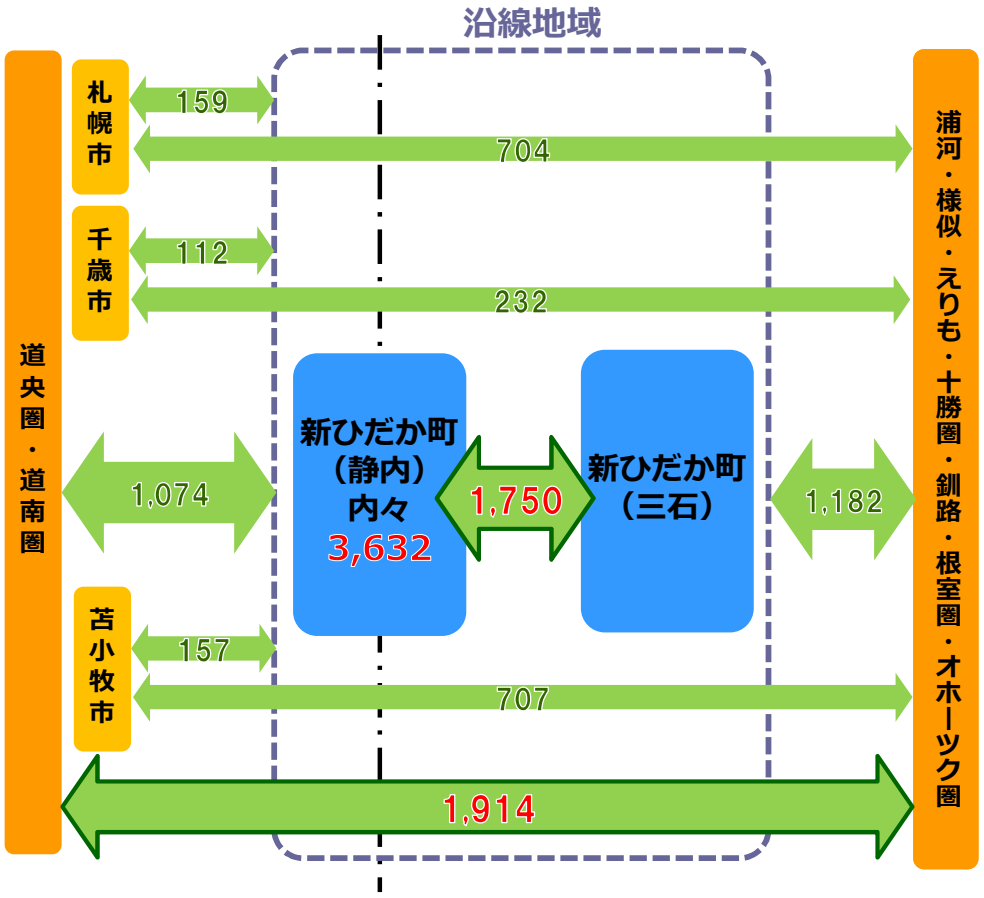


資料：平成30年　市町村別産出額（推計）（農林水産省）　※軽種馬は「畜産その他」に含む

2-5） 地域の概況（交通流動）

○当該区間の交通流動は、新ひだか町静内における内々流動が最も多い。また、沿線地域である新ひだか町静内～三石間や道央圏・道南圏と十勝圏・釧路・根室圏・オホーツク圏等を行き来する広域的な流動も多い。
○当該区間の交通量は11,480台/日で、周辺道路と比較すると特に交通量の多い区間である。
○JR日高線は平成27年に発生した災害により不通となり、現在は代行バスが運行。沿線自治体では鉄路の廃止、バス転換に向け、JR北海道と協議中。

▼国道235号　静内～三石の利用OD



国道235号：静内～三石間

資料：平成22年度　全国道路・街路交通情勢調査　　（単位：トリップ）
注1：平成22年度　全国道路・街路交通情勢調査ODから国道235号静内⇔浦河間を通過するODを抽出し、日交通量にOD比率を乗じ算出。

▼周辺の交通量と大型車混入率

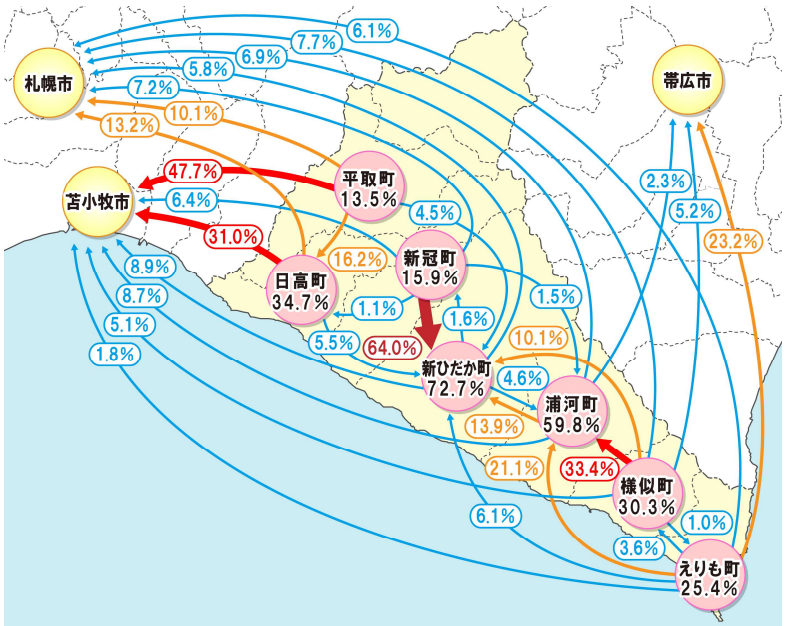


資料：平成27年度　全国道路・街路交通情勢調査

2-6） 地域の概況（生活交通流動）

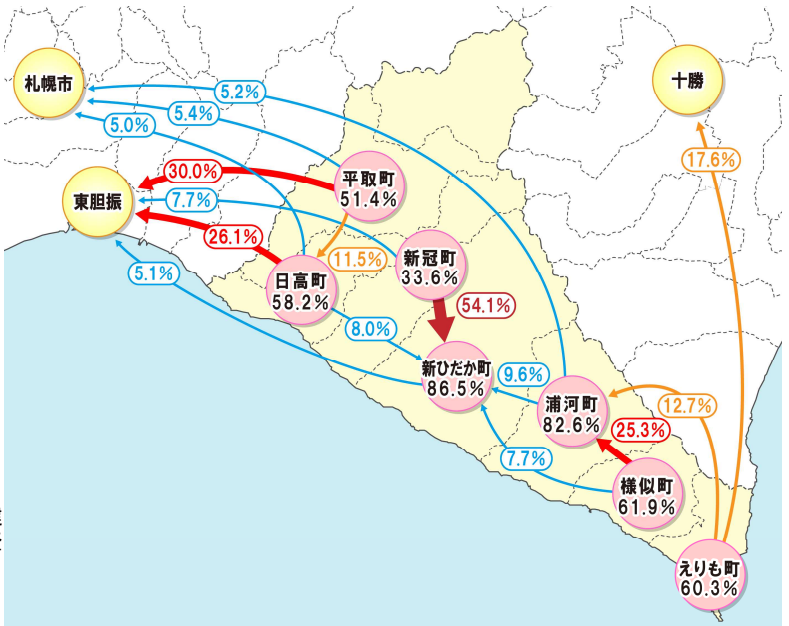
○日常の生活交通は、日高地域の中心都市である新ひだか町、浦河町への流動が多い。
○買物や入院では、大型商業施設や高次医療施設を有する苫小牧市、札幌市など圏域を越えた流動も多い。

▼日高地域の買物動向



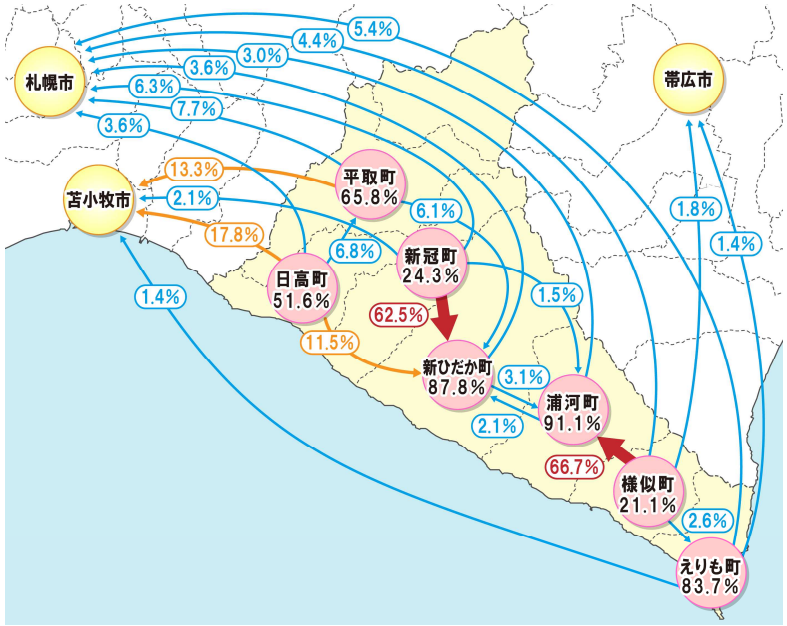
資料：平成21年北海道広域商圏動向調査報告書（北海道）

▼日高地域の通院動向



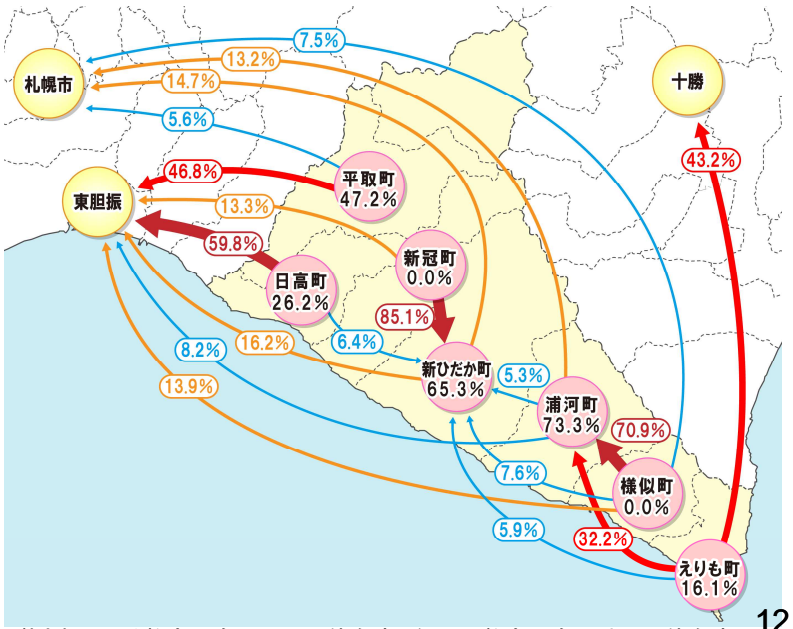
資料：平成28年度国民健康保険患者受療動向調査（北海道）

▼日高地域の通学動向



資料：平成27年国勢調査（総務省）

▼日高地域の入院動向



資料：平成28年度国民健康保険患者受療動向調査（北海道）

※図中の自治体の下に記載されている数字は自町内への依存率、矢印の数字は自町外への依存率

2-7） 地域の概況（地震）

〇日高地域は、今後30年以内に震度6弱以上の大規模地震の発生する確率が非常に高い地域。
〇全国の拠点都市の中では、浦河町の発生確率は70%と全国的にも高い水準。

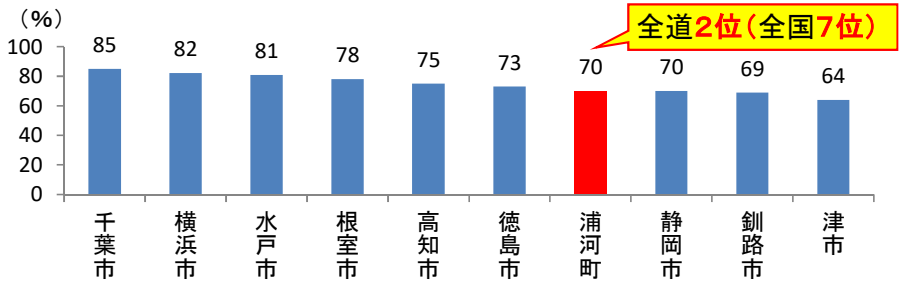
▼日高管内で発生した震度5以上の地震履歴

No	地震の発生日時	震央地名（地震名称）	M	最大震度	うち、日高管内の最大震度
1	2019/2/21 21:22	胆振地方中東部	M5.8	6弱	5弱
2	2018/10/5 8:58	胆振地方中東部	M5.2	5弱	5弱
3	2018/9/6 3:07	北海道胆振東部	M6.7	7	6弱
4	2016/1/14 12:25	浦河沖	M6.7	5弱	5弱
5	2013/2/2 23:17	十勝地方南部	M6.5	5強	5弱
6	2012/8/25 23:16	十勝地方南部	M6.1	5弱	5弱
7	2011/11/24 19:25	浦河沖	M6.2	5弱	5弱
8	2011/9/7 22:29	日高地方中部	M5.1	5強	5強
9	2011/3/11 14:46	三陸沖（東北地方太平洋沖）	M9.0	7	4
10	2008/9/11 9:20	十勝沖	M7.1	5弱	5弱
11	2004/11/29 3:32	釧路沖	M7.1	5強	5弱
12	2003/9/26 6:08	十勝沖	M7.1	6弱	6弱
13	2003/9/26 4:50	十勝沖	M8.0	6弱	6弱
14	1997/2/20 16:55	浦河沖	M5.9	5弱	5弱
15	1994/10/4 22:22	北海道東方沖	M8.2	6	5
16	1993/1/15 20:06	釧路沖	M7.5	6	5
17	1982/3/21 11:32	浦河沖	M7.1	6	6
18	1981/1/23 13:58	浦河沖	M6.9	5	5
19	1974/11/9 6:23	苫小牧沖	M6.3	5	5
20	1971/8/2 16:24	十勝沖	M7.0	5	5
21	1970/1/21 2:33	十勝支庁南部	M6.7	5	5
22	1968/9/21 22:06	浦河沖	M6.8	5	5
23	1968/5/16 19:39	青森県東方沖（十勝沖）	M7.5	5	5
24	1968/5/16 9:48	青森県東方沖（十勝沖）	M7.9	5	5
25	1952/3/4 10:22	十勝沖	M8.2	5	5
26	1932/11/26 13:24	日高地方中部	M6.9	5	5

震度4ながら津波により浦河港で大きな被害が発生

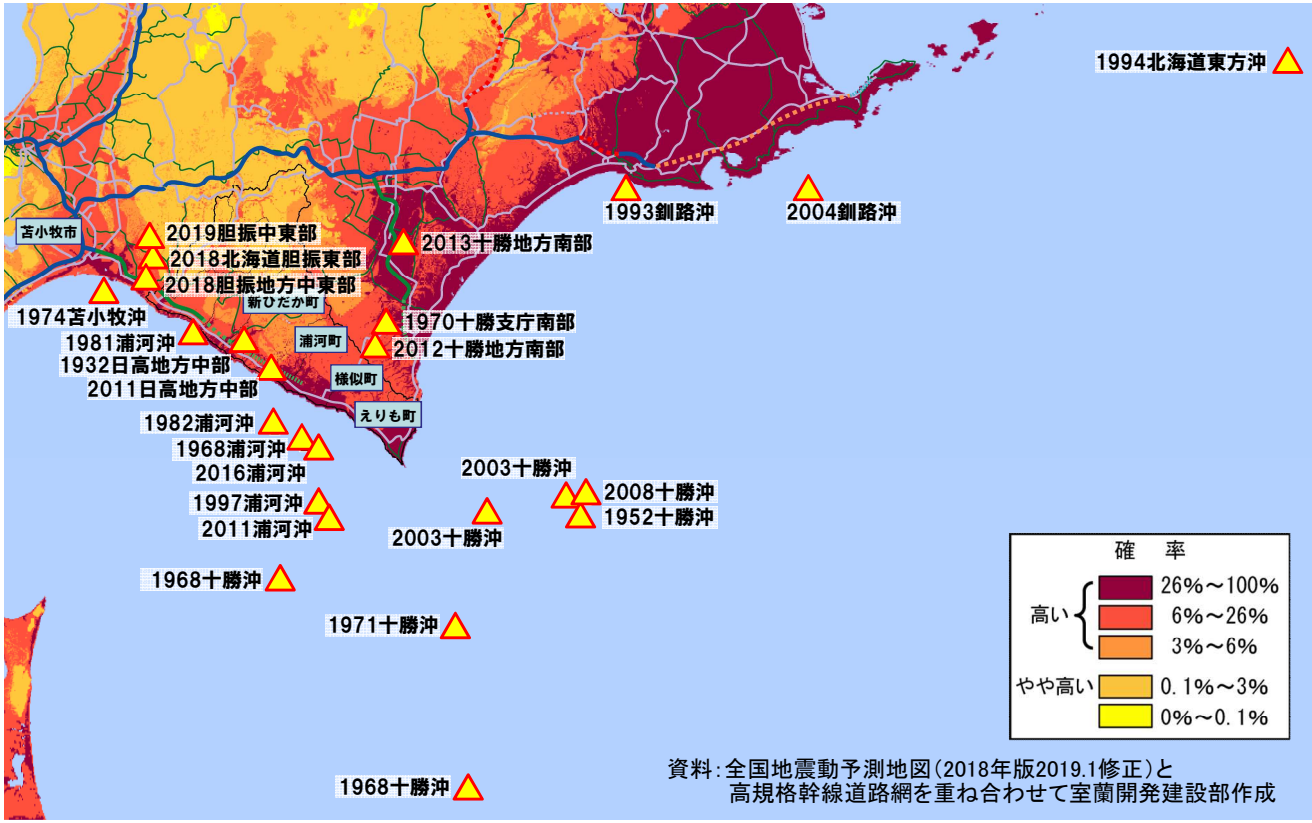
資料：気象庁HP（震度データベース）より作成

▼今後30年以内に震度6弱以上の揺れが発生する確率



資料：全国地震動予測地図（2018年版）※2019.1修正版
地点：都道府県庁及び総合振興局・振興局の所在地（計60箇所）

▼今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布



資料：全国地震動予測地図（2018年版2019.1修正）と高規格幹線道路網を重ね合わせて室蘭開発建設部作成

▼東日本大震災（2011.3.11）時の浦河港



▼十勝沖地震（2003.9.26）時の日高管内の被災状況



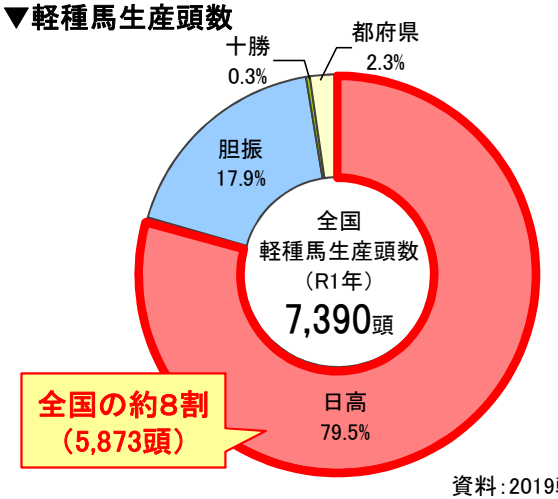
写真：室蘭開発建設部

３．地域の状況と課題

3-1） 地域の状況と課題（農畜産業①）

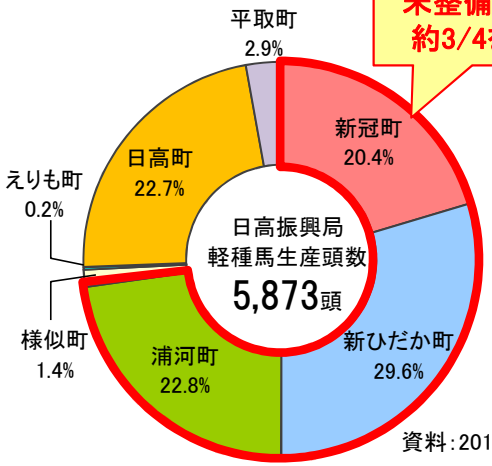
○日高地域は、全国生産頭数の約8割を占める全国一の軽種馬産地であるが、生産される軽種馬の約3/4は、軽種馬の輸送ルートである日高自動車道の未整備地域で生産。
○日高地域は、本州のトレーニングセンターまでの距離が長く、輸送ルートのうち、一般道利用は日高地域のみ。
○信号交差点での加減速や走行中の揺れに起因する輸送熱※の発症率が全国で最も高く、一定速度で走行できる輸送路の確保が課題。
※輸送熱とは、長距離輸送やストップ＆ゴーに起因する馬の呼吸器疾患の病気。肺炎を起こし、命を落とすこともある。

▼軽種馬生産頭数



資料：2019軽種馬統計

▼日高地域の軽種馬生産頭数



資料：2019軽種馬統計

▼軽種場関係施設までの輸送例



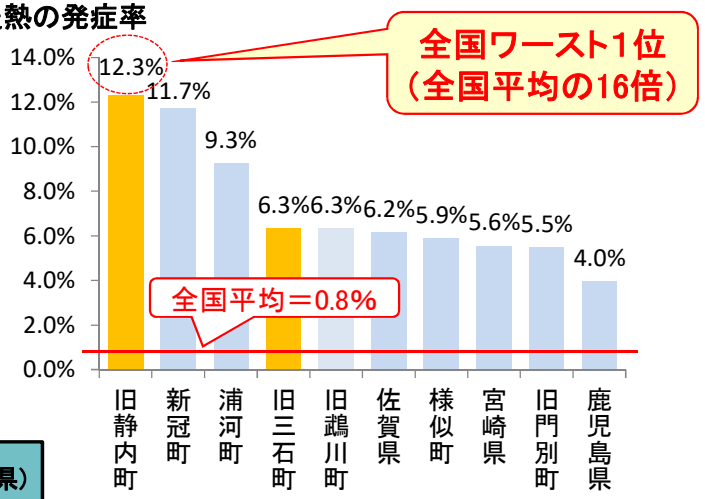
美浦トレーニングセンター（茨城県）



中央競馬の東日本地区における調教拠点。常時2000頭を超える馬が調教されている。

資料：北海道競走馬輸送事業協同組合ヒアリング、JRAホームページより

▼輸送熱の発症率



資料：JRA競走馬総合研究所データ（H26-H30）より作成

▼静内市街地を走行する馬運車

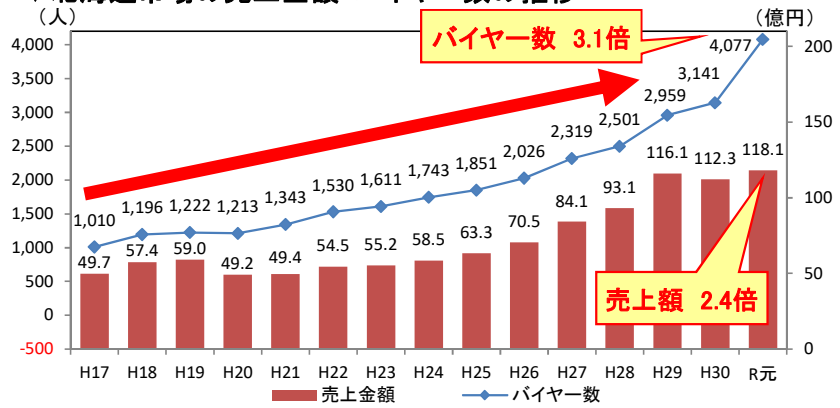


写真：室蘭開発建設部

3-2） 地域の状況と課題（農畜産業②）

○日高管内では、年5回の軽種馬せり市（北海道市場）を開催。近年は、北海道市場での売上金額・バイヤー数ともに増加しており、令和元年度は過去最高を記録。
○開催期間中には、国道235号や日高自動車道を利用して道内各地から馬運車（ばうんしゃ）が往来するほか、道外から多数のバイヤーが来訪。軽種馬取引が活況の中、馬運車（ばうんしゃ）の到着遅延は、市場取引の機会損失を招く恐れがあり、確実性や速達性の高い輸送ルートの確保が課題。

▼北海道市場の売上金額・バイヤー数の推移



資料：日高軽種馬農協資料

▼北海道市場の開催状況及び市場成績（R元年度）

市場名		開催期間	上場頭数（頭）	販売頭数（頭）	販売額（千円）
トレーニングセール	サラ2歳	R1.5.21	234	162	1,148,904
セレクションセール	サラ1歳	R1.7.16	236	197	3,103,272
サマーセール	サラ1歳	R1.8.19～22	1,197	859	4,937,652
セプテンバーセール	サラ1歳	R1.9.17～18	492	363	1,597,860
オータムセール	サラ1歳	R1.10.15～16	432	320	1,023,770
合計			2,591	1,901	11,811,458

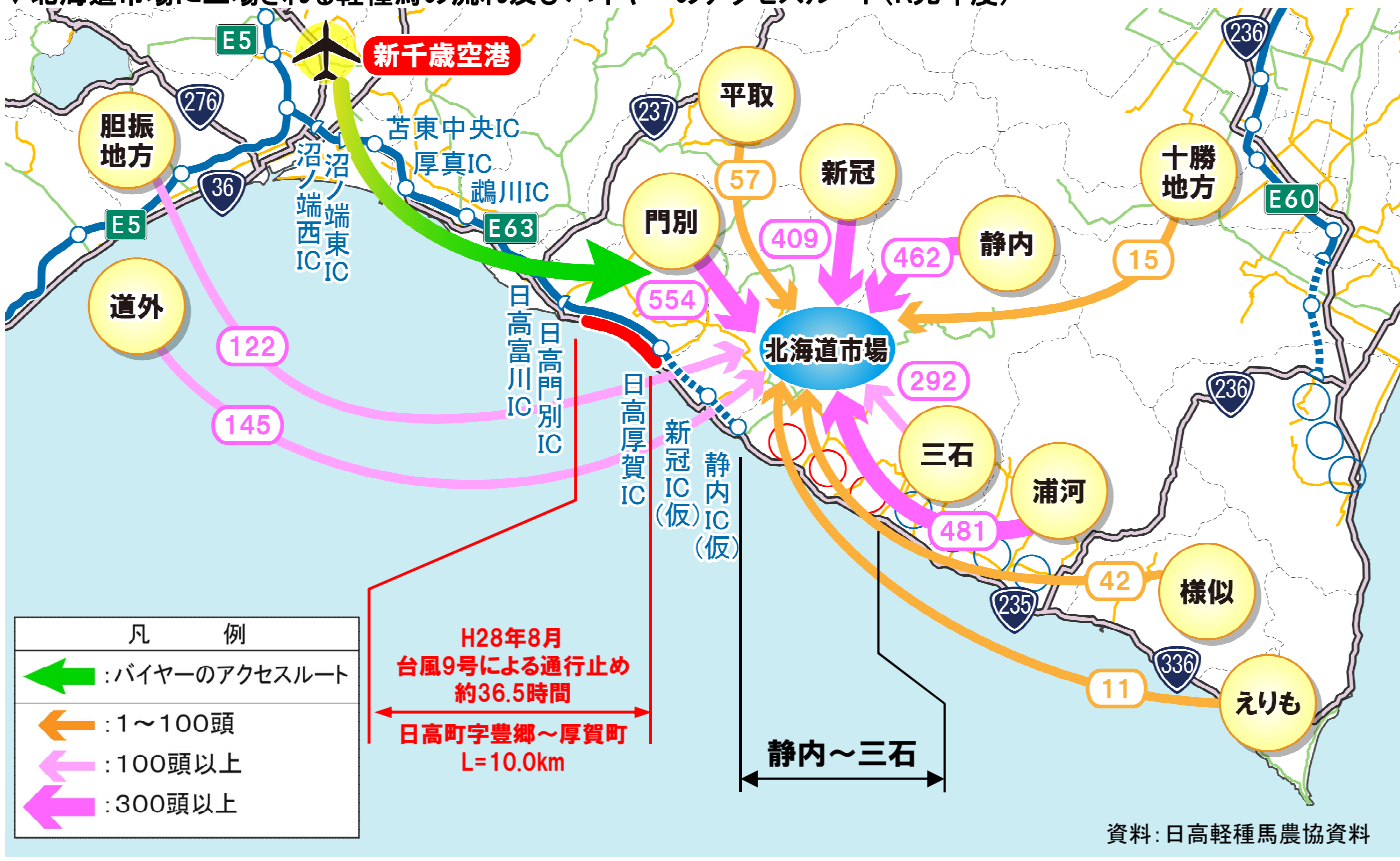
資料：日高軽種馬農協資料





写真：室蘭開発建設部

▼北海道市場に上場される軽種馬の流れ及びバイヤーのアクセスルート（R元年度）



資料：日高軽種馬農協資料

◆地域の声（日高軽種馬農協）

・サマーセール期間中に発生した台風9号（平成28年8月）の際は、国道235号が通行止めになり、36頭の軽種馬が市場に到着できず上場（セリ）をキャンセルした。日高厚賀ＩＣの開通により同区間のリスクは低減したが、浦河町等の日高東部地域からも多くの馬が輸送されるので、浦河方面への早期整備を期待している。

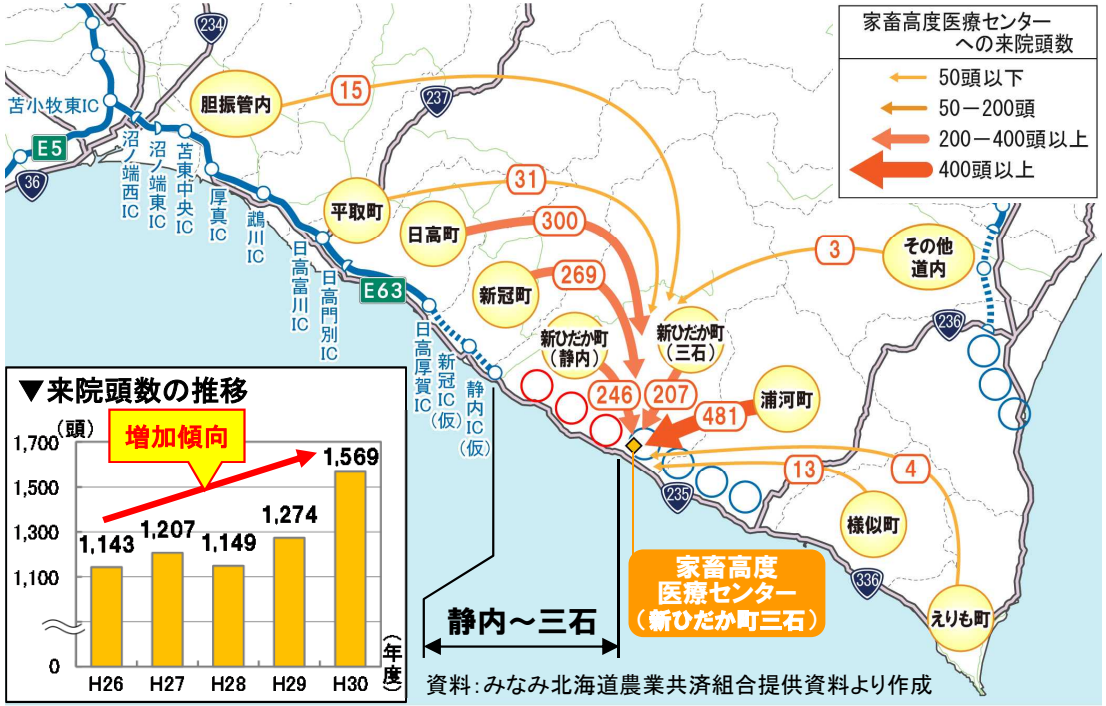
3-3） 地域の状況と課題（農畜産業③）

○新ひだか町三石に立地する家畜高度医療センターは、軽種馬の高度な医療処置（大型レントゲン撮影、開腹手術等）が行える管内唯一の診療施設として年間約1,600頭の軽種馬が来院しており、その数は増加傾向。

○安平町に立地する世界的な種牡馬繋養牧場では、年間延べ約3,600頭の繁殖牝馬への種付けを行っており、うち約3割が当該地域周辺から輸送されている。

○国道235号は、こうした軽種馬の生産・育成を支える広域的な流動において日常的に利用されており、確実性や速達性の高い輸送ルートの確保が課題。

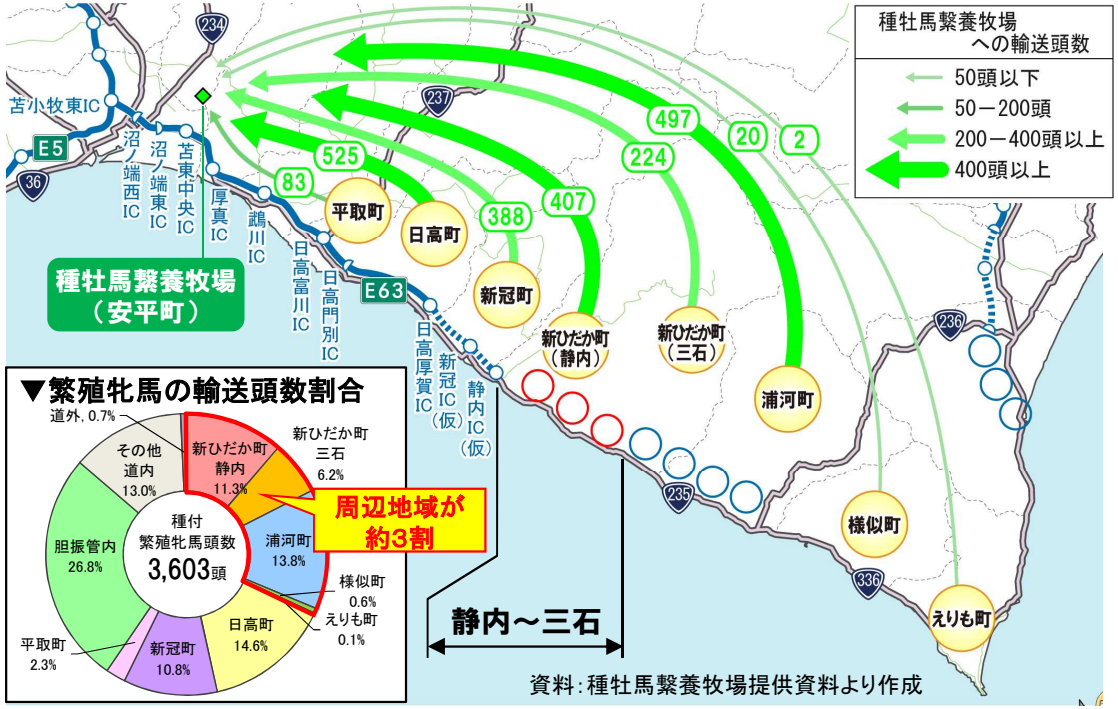
▼家畜高度医療センター（新ひだか町三石）への来院状況（H30）



▼来院頭数の推移

資料：みなみ北海道農業共済組合提供資料より作成

▼種牡馬繋養牧場（安平町）への繁殖牝馬の輸送状況（R1）



▼繁殖牝馬の輸送頭数割合

資料：種牡馬繋養牧場提供資料より作成

◆地域の声（みなみ北海道農業共済組合）

- 平成30年２月に、新ひだか町静内にあった軽種馬の2次診療施設が獣医師の退職により閉鎖したため、日高管内において大型レントゲンや開腹などの緊急手術が行える２次診療施設は、当組合が管轄する家畜高度医療センターのみとなった。
- 軽種馬の輸送は日高道及び国道235号を利用しているが、人間と同じように一刻を争うため、迅速かつ確実に搬送することがとても重要である。
- 静内での緊急手術ができなくなり、当センターの果たす役割は益々大きくなってくると認識しており、軽種馬産業の安定化を図っていくためにも、三石までの早期延伸を期待している。

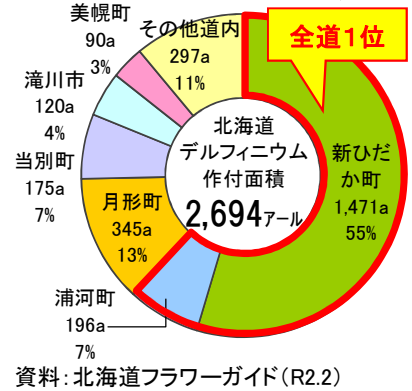
◆地域の声（安平町の種牡馬繋養牧場）

- 当牧場は、牧場1カ所あたりの種付け規模は恐らく世界最大と思われる。
- 浦河の生産牧場が種付けに来る場合、ほぼ1日仕事になっている。種付け業務は、馬運車の手配や種付け料もかかるため、牧場経営の大きな負担になっているが、これらを乗り越えないと良い種をつけられないため、牧場主は相当なリスクを強いられている。
- 日高道の延伸により、浦河～当牧場間の移動が仮に1日2往復できるようになれば、生産牧場にとって経営コストを大きく削減できると思われる。

3-4） 地域の状況と課題（農畜産業④）

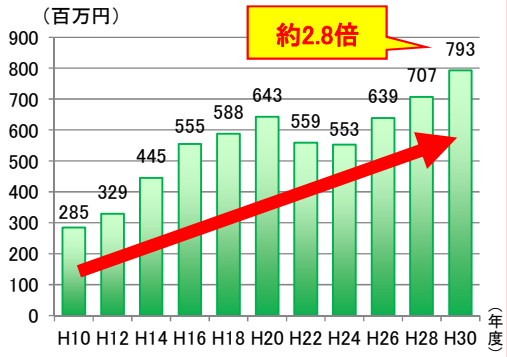
○日高地域では、全道一の作付面積を誇る新ひだか町のデルフィニウム（花卉）や、浦河・様似産の夏いちご等のブランド品が新千歳空港や苫小牧港等より道外へ出荷。
○道産夏いちごは、特に8月9月の東京市場において取り扱い量の5割を超えるなど、夏期に生産が落ち込む本州産をカバーしており、浦河・様似は重要な産地。
○これら農産物は、生産量拡大による集荷・選別時間の確保が課題となっており、空港・港湾等の出荷拠点への速達性・確実性の高い輸送ルートの確保が課題。

▼デルフィニウムの作付面積



資料：北海道フラワーガイド（R2.2）

▼デルフィニウムの出荷額



資料：JAみついし資料

「みついし花だより」のブランドで全国に出荷



資料：JAみついし資料

▼農産物の輸送ルート

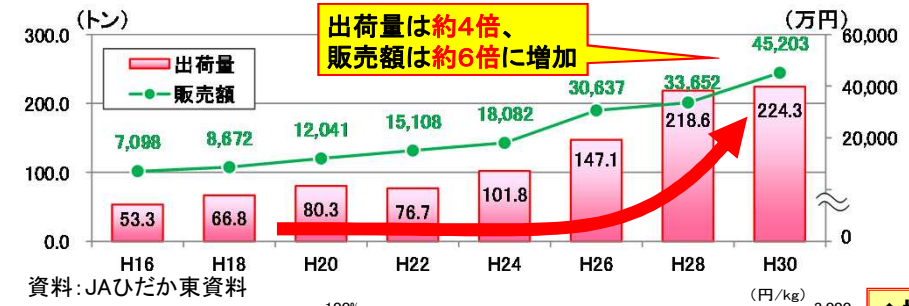


資料：JAみついし、JAひだか東ヒアリング

▼デルフィニウムの出荷スケジュール



▼浦河・様似産の夏いちご出荷量及び販売額



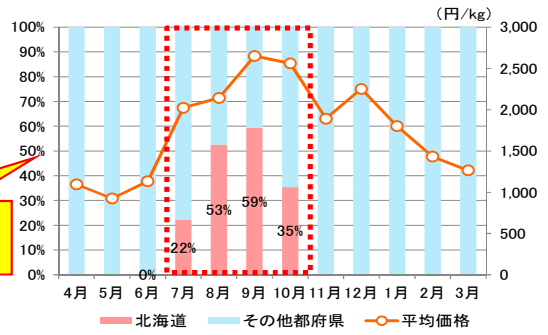
資料：JAひだか東資料

「すずあかね」のブランド名で東京の洋菓子店等に出荷



資料：JAひだか東資料

▼月別国産いちご取扱割合及び道産いちごの単価



資料：東京都中央卸売市場
平成31年4月～令和2年3月
の取扱実績

夏期の端境期は、
北海道産の取扱が増加

◆地域の声（みついし農協）

・近年、デルフィニウムの集荷が増加しており、選別や梱包に擁する作業時間の確保が課題。
・デルフィニウムの本州出荷の9割は14:30発の飛行機で輸送しているが、最大の販売先である大阪市場からは少しでも早く到着してほしいというニーズが高まっており、できれば、13:30発の便での出荷を拡大したい。
・H28.8に発生した台風9号の際は、国道235号の通行止めにより関西便の飛行機に間に合わず、札幌方面に出荷した結果、約100万円の損害が発生した。

◆地域の声（ひだか東農協）

・東京市場の端境期である6～11月に出荷する夏いちごの約9割は、新千歳空港から空輸している。
・いちごの生産量は増えている一方、収穫したいちごを集荷・選別しトラックに積み込む時間の確保が一番の課題となっている。

3-5） 地域の状況と課題（水産業）

○日高地域は、つぶ、まつかわ（かれい）の漁獲高が全道一であり、国道235号を利用して道内外へ出荷。
○さけは、日高自動車道の延伸により、いくらへの加工や東京への即日出荷が可能になり、販売単価が約5倍に増加するなど水産業の安定化に貢献する一方、未だ、到着遅延に伴う価格や商品価値の低下を招いている。
○一方、道内の物流拠点までの距離が長く、長距離の陸上輸送を強いられる中、貨物車両が年々減少。
○令和3年度に予定されている冷凍・加工施設の稼働により、鮮魚の付加価値向上や札幌市場への即日出荷が可能になると期待されており、その実現に向けた速達性・確実性の高い輸送ルートの確保が課題。

▼さけの出荷スケジュール



資料：ひだか漁協ヒアリング
平成27年度　全国道路・街路交通情勢調査

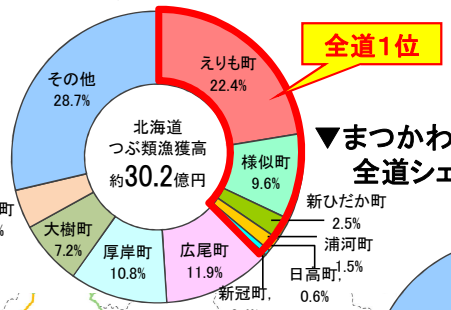
※所要時間は、4時間運転ごとに休憩時間30分を含む

▼ひだか漁協の漁獲高

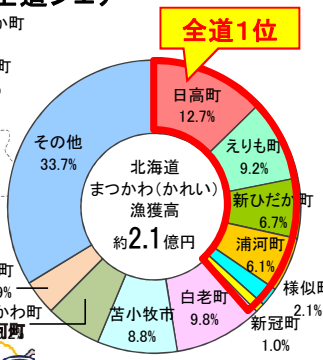
▼水産物の輸送ルート



▼つぶ漁獲高全道シェア



▼まつかわ（かれい） 漁獲高全道シェア

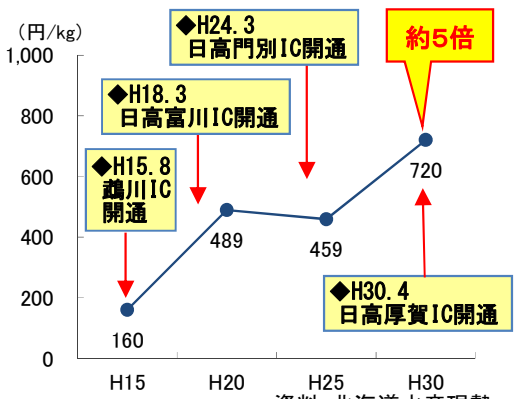




静内～三石

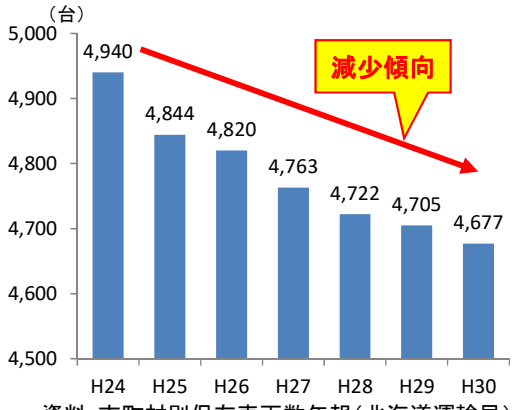
資料：北海道水産現勢（H30）
漁協ヒアリング

▼日高産「さけ」の販売単価の推移



資料：北海道水産現勢

▼新ひだか町の貨物自動車数の推移



資料：市町村別保有車両数年報（北海道運輸局）

◆地域の声（ひだか漁協）

・日高道が整備される前は、さけの出荷は7割が釧路でしたが、日高道の整備により函館の仲買人が来やすくなり、現在では7割を函館に出荷、東京へ即日出荷が可能となったことから販売単価も大きく増加しており、日高道は水産業の安定化に貢献しています。
・一方、商品価値の高い「いくら」に加工するためには5時間以内での輸送が目安であるが、現状では、到着遅延により「いくら」に加工できないサケが2割程度発生している。
・令和3年度に予定している冷凍・加工施設が稼働すれば、当日水揚げされた鮮魚の付加価値向上や札幌等のスーパーでの当日販売が可能となると期待している。現在は当漁協で水揚げされた魚を扱う予定だが、日高道が延伸されれば、浦河、えりも方面で水揚げされた魚を扱うことも可能と考えている。そのためにも日高道の浦河方面への延伸が不可欠であり、早期整備に期待している。

3-6） 地域の状況と課題（医療①）

○日高中東部地域の二次救急医療機関では、心疾患、脳疾患など急性期の重症患者に対応できる診療科目が不足。
○重症患者の約9割は、苫小牧市や札幌市の高次医療施設に依存しており、搬送件数も年々増加。

▼日高中東部地域における二次救急医療機関の診療状況

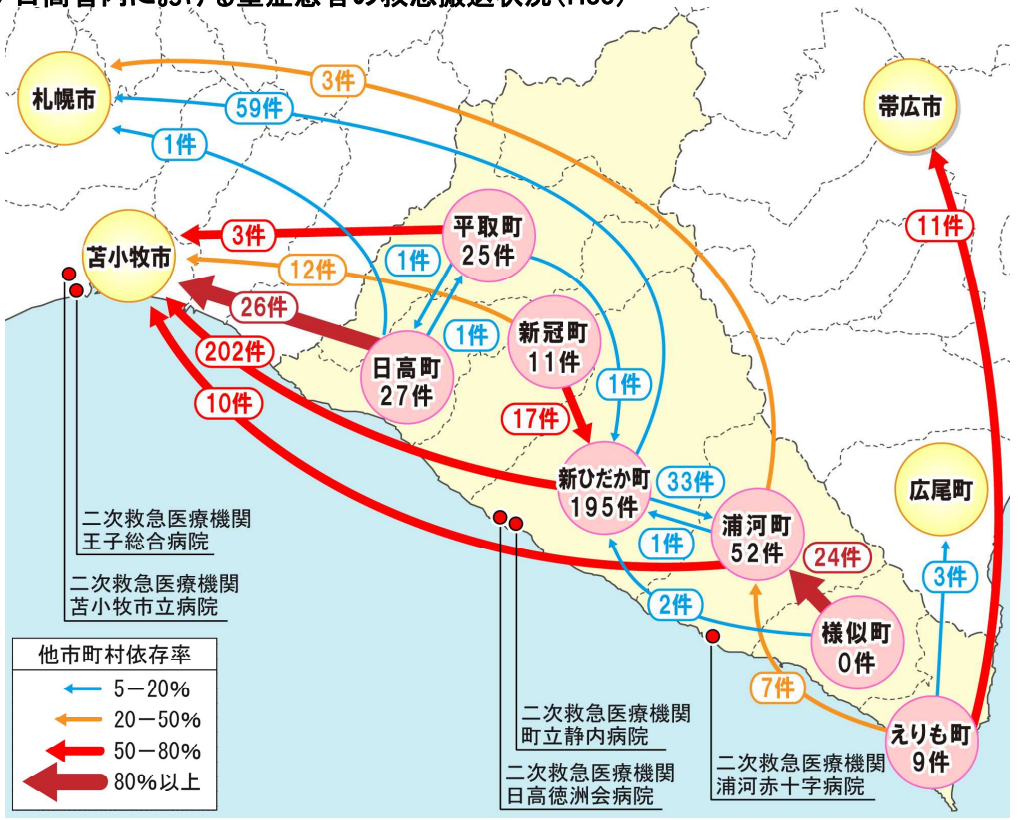
	日高中東部地域			苫小牧市	
	新ひだか町立静内病院	日高徳洲会病院	浦河赤十字病院	王子総合病院	苫小牧市立病院
循環器科	○	○（週3日）	×	○	○
心臓血管外科	×	×	×	○（週3日）	×
脳神経系外科	○（週1）	○（週1～2日）	×	○	○
急性期医療機関（心筋梗塞）	○	×	×	○	○
急性期医療機関（脳卒中）	×	×	×	○	○

出張医による
週1～2日のみ対応

資料：各病院HP、北海道医療計画（H30.3）

※日高中東部地域とは、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の5町

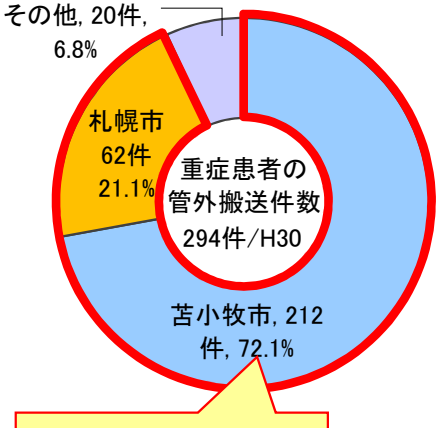
▼日高管内における重症患者の救急搬送状況（H30）



資料：日高中部及び東部消防組合データより作成
※自治体名の下の数字は自町内への搬送件数、矢印の数字は自町外への搬送件数

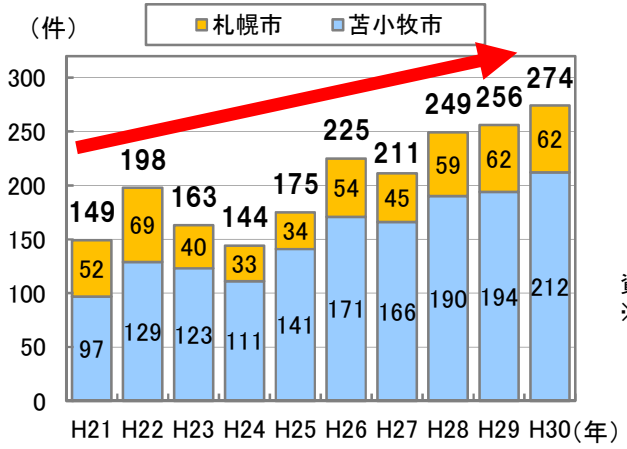
※日高中東部地域とは、新冠町、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町の5町

▼重症患者の苫小牧市・札幌市への搬送件数



重症患者の約9割は
苫小牧・札幌に搬送

資料：日高中部及び東部消防組合データより作成
※対象：新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町



資料：日高中部及び東部消防組合データより作成
※対象：新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町

重症患者とは、以下の「死亡」「重症」の合計
※死亡：初診時において死亡が確認された患者
※重症：3週間以上の入院加療を必要とする患者
（消防庁による判定基準）

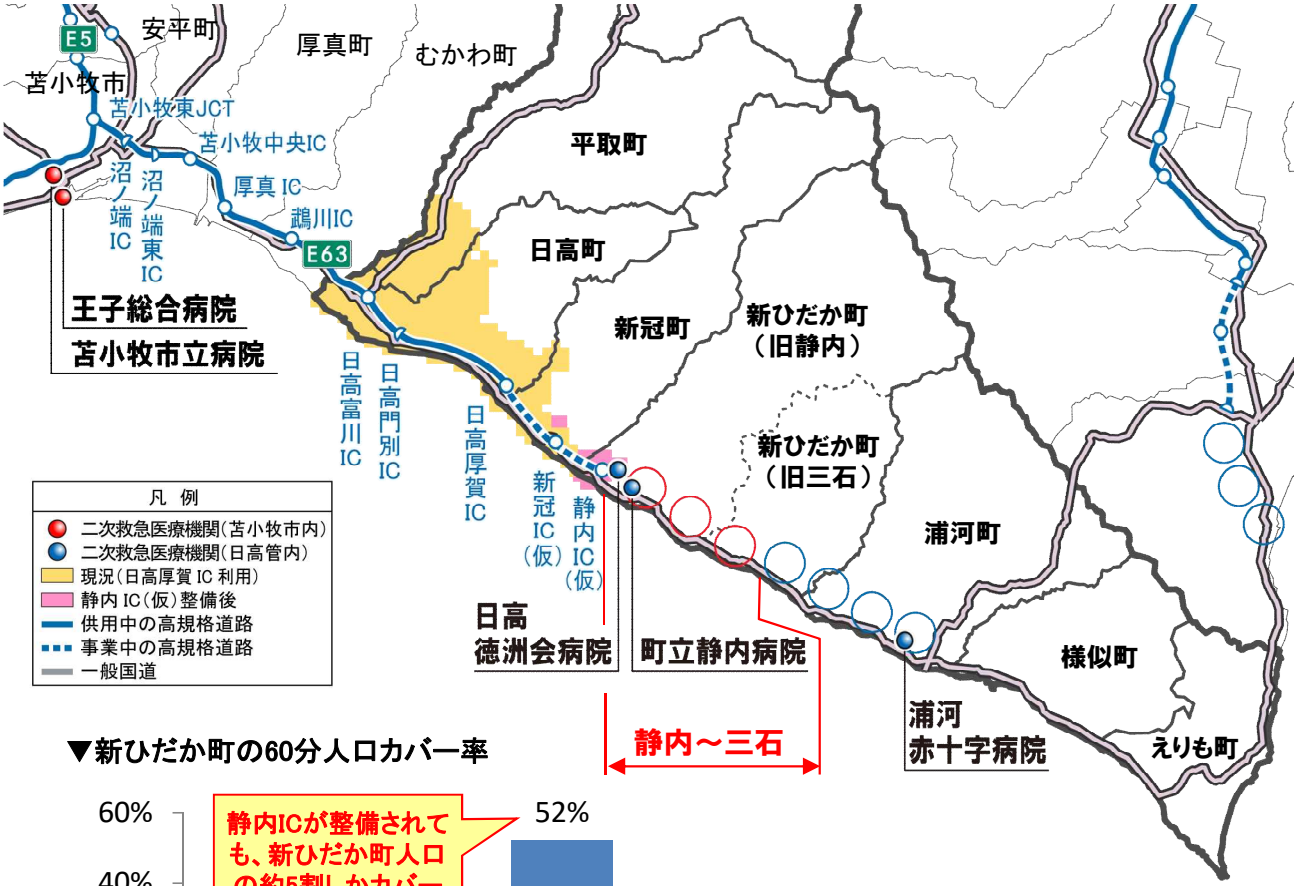
▼北海道医療計画【改訂版】日高地域推進方針（H30.9　日高振興局）

交通機関の状況	日高自動車道は、平成30年4月に日高厚賀ICまで延伸されましたが、区間の建設促進及び各町を内陸部で結ぶ幹線道路としての更なる道路整備を期待。
脳卒中の医療連携	日高圏域には、対応可能な医療機関はなく、隣接する東胆振圏域等の専門医がいる医療機関に依存。
心筋梗塞等の心疾患の医療連携	・日高圏域には、心疾患の急性期医療を担う医療機関は1箇所（新ひだか町立静内病院）。 ・冠疾患専用集中治療室（CCU）を有する病院は、日高圏域にはなく、隣接する東胆振圏域等の医療機関に依存。 ・日高圏域では、心臓カテーテル検査や冠動脈形成術（PCI）を行っている医療機関を中心に隣接する東胆振圏域の医療機関との連携が重要。

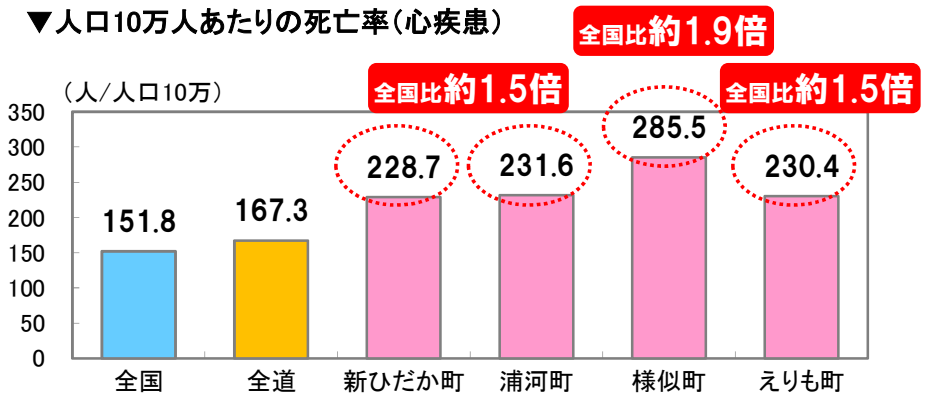
3-7） 地域の状況と課題（医療②）

○新ひだか町から苫小牧市への救急搬送は、心疾患の救命効果が期待できる60分での到達が困難であり、地域住民の死亡率は全国・全道平均と比較して高い水準。
○安心して暮らせる地域を形成するためには、苫小牧市や札幌市への救急搬送の速達性向上が課題。

▼二次救急医療機関（苫小牧）60分カバー圏域図【現況】



▼人口10万人あたりの死亡率（心疾患）

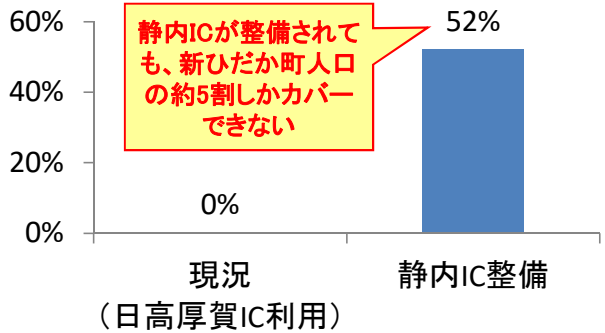


資料：北海道保健統計年報　※H19-28の10年平均

▼心疾患のゴールデンタイム

疾病	記載内容
心疾患	急性心筋梗塞を発症すると、胸痛の後に心停止を起こす。胸痛から心停止までの時間は、1時間以内が86%であり、「**発症から1時間以内**に適切な処置を行い専門病院に搬送されること」が重要となる。 【資料】第2回日本循環器学会プレスセミナー

▼新ひだか町の60分人口カバー率



※数値はH27国勢調査人口ベース

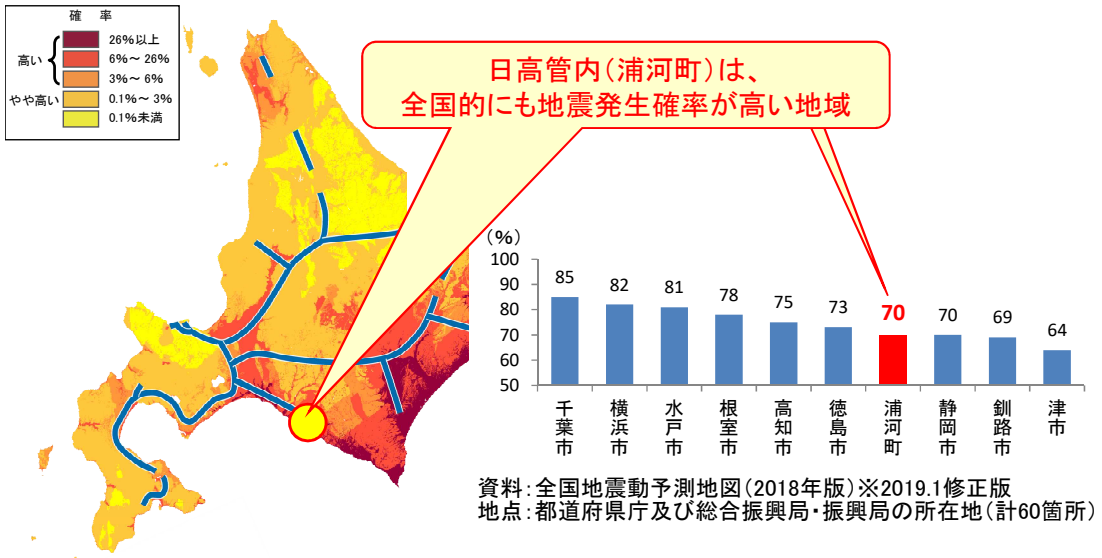
◆地域の声（日高中部消防組合消防本部）

- 苫小牧・札幌方面への救急搬送は全体の3割以上を占め、毎日のように搬送している。
- 静内～春立間は急カーブが多く、先日はトレーラーが横転していた。救急車の走行でも減速を余儀なくされており、患者への負担も大きいと感じている。
- 特に静内市街地では、信号交差点でのブレーキ・加速度が患者にとって大きな負担となっている
- 過去に災害等で国道が寸断した際は道道を迂回して長時間輸送を余儀なくされたので、日高道の早期延伸を期待している。

3-8） 地域の状況と課題（災害）

○大規模地震の発生により、沿線人口の約9割が津波による影響を受けると想定。
○災害時の拠点となる静内駐屯地は、津波による浸水が予測され、被災した場合は、道内外からの応援が必要。
○津波浸水予測範囲に位置する国道235号が寸断した場合、救援・救助、復旧活動に大きく影響すると懸念。

▼30年以内の震度6弱以上の地震発生確率（H31.1.1算定）



資料：全国地震動予測地図（2018年版）※2019.1修正版
地点：都道府県庁及び総合振興局・振興局の所在地（計60箇所）

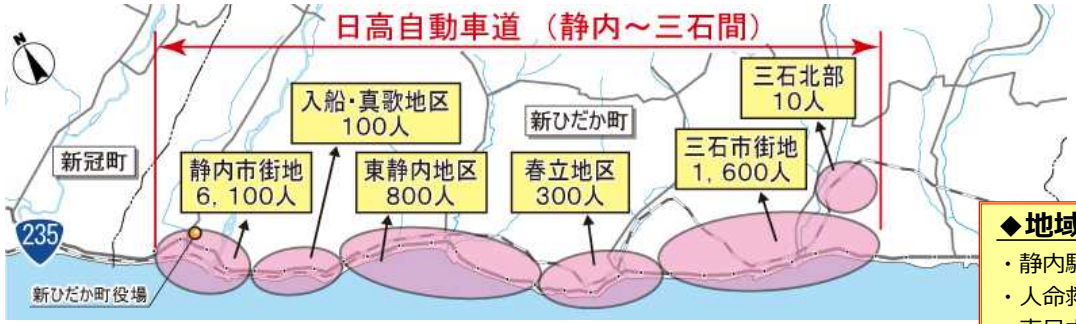
▼日高地域の津波浸水想定区間及び救援救助想定ルート



資料：北海道太平洋沿岸の津波浸水想定（R3.7公表）、自衛隊ヒアリングをもとに室蘭開発建設部で作成

▼国道235号の津波浸水による影響人口

津波影響人口
約9千人
（沿線人口の約9割）



資料：北海道太平洋沿岸の津波浸水想定（R3.7公表）をもとに室蘭開発建設部で作成
※津波浸水影響人口は、H27国勢調査人口（3次メッシュ）より試算

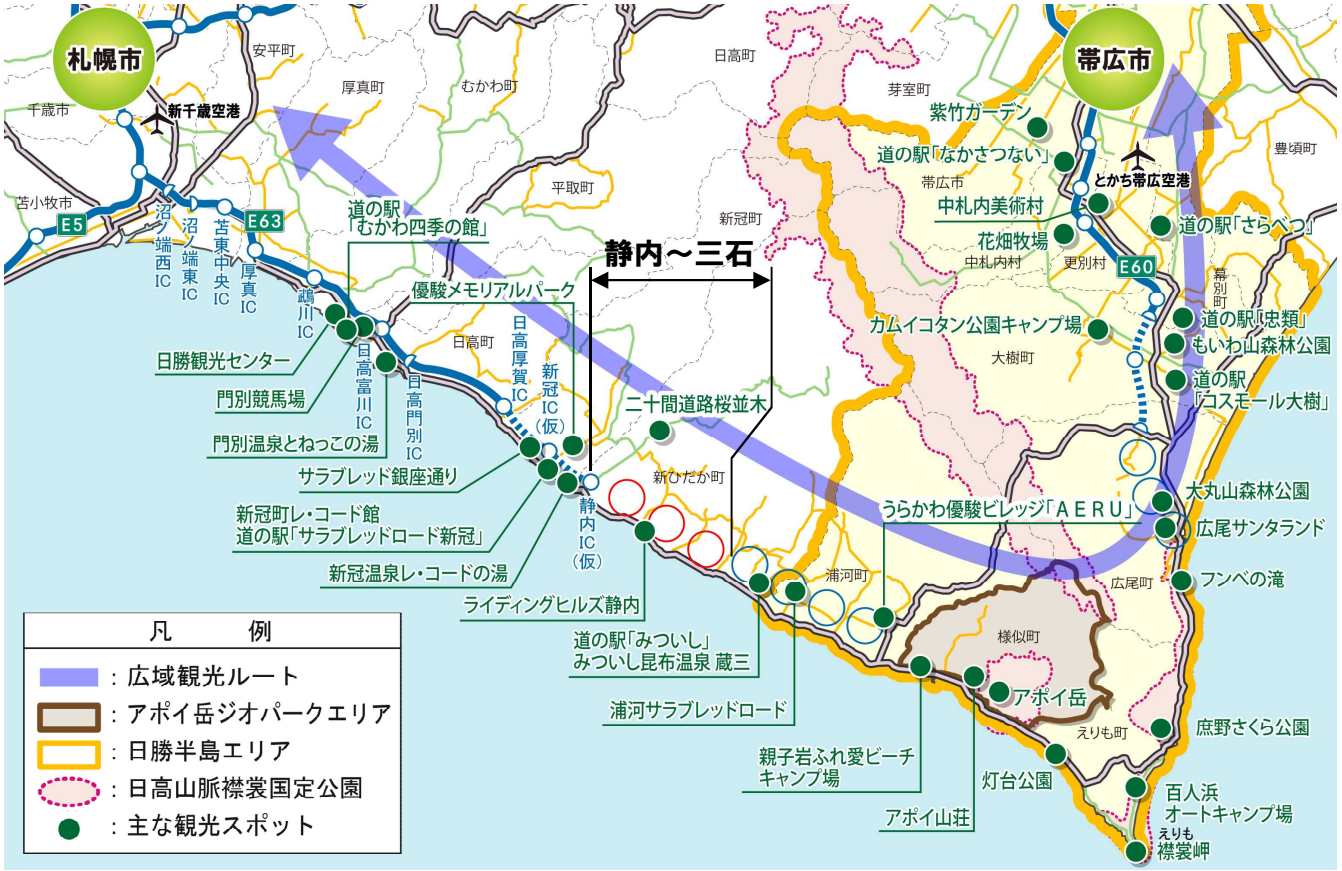
◆地域の声（陸上自衛隊静内駐屯地）

- 静内駐屯地は、新冠、新ひだか、浦河、様似、えりもの5町を管轄する部隊。
- 人命救助のゴールデンタイムは72時間。この3日間に自衛官を投入し人命救助しなければならない。
- 東日本大震災時には、多賀城駐屯地が津波により一気に浸水し機能不全に陥り、周辺部隊から救援を受けた。日高管内で大規模な津波が発生した場合、静内駐屯地も一気に浸水し、苫小牧等から応援を受けることになる。
- 並行する山側の道道は、道幅が狭く、大型車両、ブルドーザー等の重車両の走行は不可能。国道235号が寸断すると、命を救えない。よって、日高道・国道235号は救援活動の生命線。

3-9） 地域の状況と課題（観光①）

○日高地域は、襟裳岬、世界ジオパークに認定されたアポイ岳等の自然景勝地を有している。
○日高管内では、日高自動車道日高厚賀ICの開通を契機とした魅力発信や十勝南部との広域的な観光連携の取組が進展しているが、札幌市や新千歳空港等の交通拠点から遠隔に位置するため、アクセス性が課題。

▼主な観光地と広域的な周遊ルート



静内二十間道路桜並木



浦河優駿ビレッジ「AERU」



アポイ岳



襟裳岬（えりも）



写真：新ひだか町観光協会HP、浦河町HP、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、室蘭開発建設部HP

優駿日高道!!オールひだか魅力発信キャンペーン

日高自動車道「日高厚賀IC」の開通（H30.4）を契機に、日高管内7町のグルメ・特産品・自然・歴史・観光スポット等さまざまな魅力を情報発信。

札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）で開催された観光物産展」の様子





写真：優駿日高道!! オールひだか魅力発信キャンペーン町実行委員会ホームページ

日高東部と十勝南部の広域連携による観光振興

日勝半島物語

日高東部・十勝南部広域連携推進協議会では、隣接する日高東部と十勝南部を「日勝半島」と位置づけ、両地域を巡る5つの物語を構築し、日勝半島ならではのグルメツアーや観光ルートの構築を目指す。

【馬を巡る旅物語】



【花と緑を巡る旅物語】



【野生動物と森を巡る旅物語】



【海を巡る旅物語】



【食を巡る旅物語】



写真：日勝半島物語 ホームページ

3-10） 地域の状況と課題（観光②）

○沿線地域では、GW期間中、桜まつり、うに祭りなど春のイベントが各地で開催されており、各イベントの入込客数は、日高自動車道の延伸と共に増加傾向。
○一方、移動時間の長さや走行環境に関する現道課題も多く、アクセス利便の向上が課題。

▼日高管内で開催されるイベントの入込状況



（人）優駿の里浦河桜まつり

開催日：R1.5.4～5.5

（人） さまにウニまつり

開催日：R1.5.19

（人） えりもうに祭り

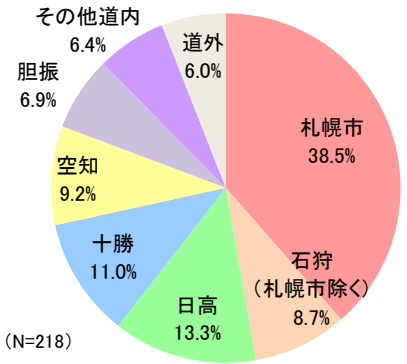
開催日：H31.4.28

（人） しずない桜まつり

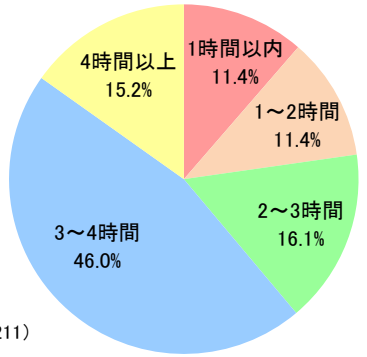
開催日：R1.5.1～5.6

資料：日高振興局、日高管内自治体
※各年イベント期間入込客数　※平成24～29年は日高門別IC～日高厚賀IC開通前の平均

▼えりもうに祭り来場者の居住地

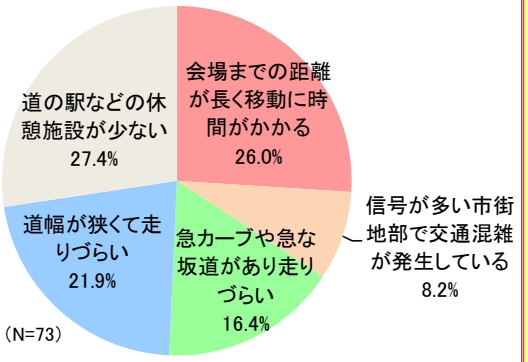


▼えりもうに祭り会場までのアクセス時間



資料：えりもうに祭り来場者アンケート（H31.4.28）

▼日高厚賀IC～えりもうに祭り会場間の現道利用における問題点



資料：えりもうに祭り来場者アンケート（H31.4.28）

◆地域の声（えりもうに祭り来場者）

＜日高厚賀ICの開通効果＞
- 時間短縮で、余裕をもって到着した。
- 早く着いてゆっくり出来ている。
- 早く走れるようになったので、運転に余裕が出来た。

＜日高道延伸への期待＞
- 日高道が浦河まで繋がると、もっとこちら方面に来やすくなる。
- ストレスはなかった。日高道が早く延長して欲しい。
- 日高道は、えりもに来やすくなるのでもっと延伸して欲しい。

４．道路の状況と課題

4-1）国道235号の道路課題

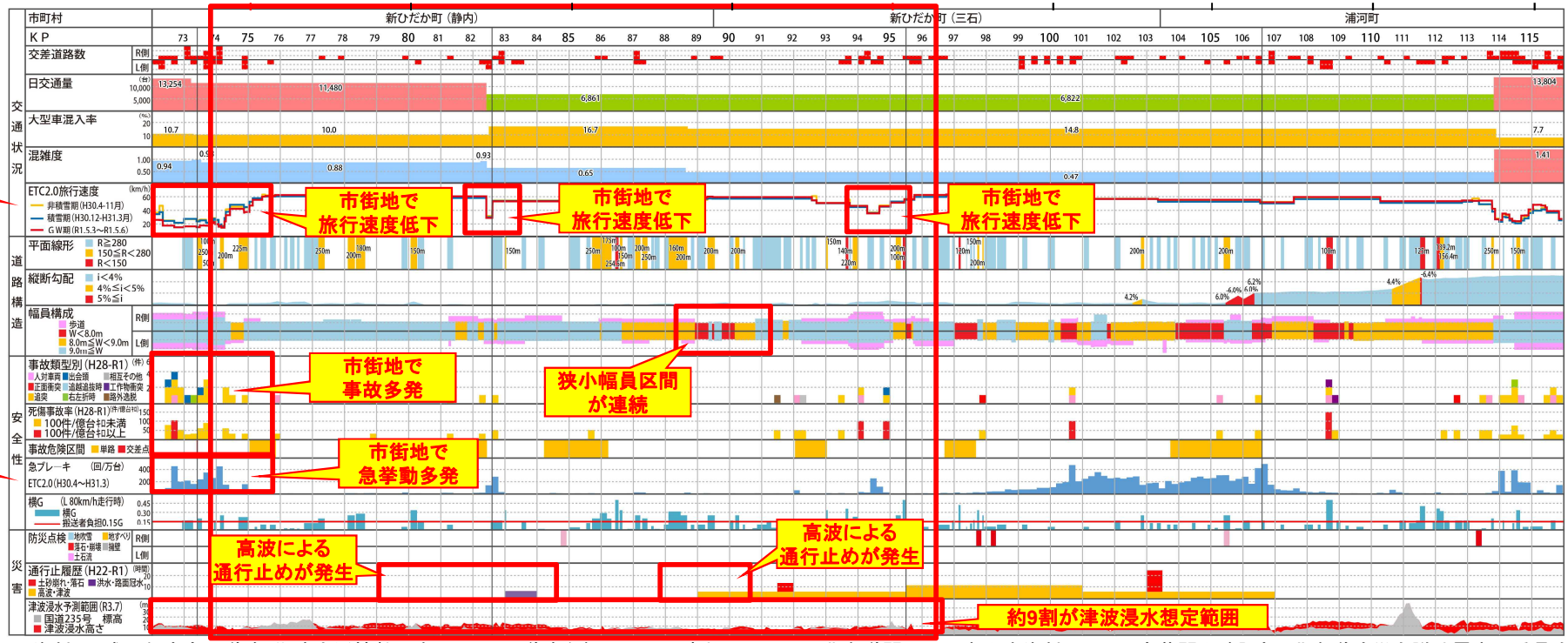
○静内～浦河間では、新ひだか町静内に最大の市街地が存在し、信号交差点が連続。
○静内市街地を含む静内～三石間は、旅行速度低下や事故多発、通行止め等の道路課題のほか、津波によりほぼ全区間が浸水するなど、道路課題が集中。



凡例
津波浸水想定範囲
（最大浸水深）
1m未満
1m～2m未満
2m～3m未満
3m～4m未満
4m～5m未満
5m～6m未満
6m～7m未満
7m～8m未満
8m～9m未満
9m～10m未満
10m以上

凡例
国道
主要道道
一般道道
隘路区間
事故危険区間
市街地
主要施設
遺跡・神社・墓地
牧場施設・公園
史跡・名勝・条例等保全対象
信号機

資料：北海道に津波被害をもたらす想定地震の再検討のためのワーキンググループ「太平洋沿岸の見直し」報告書（H24.6）



市街地の速度低下（静内市街地）



市街地の速度低下（三石市街地）



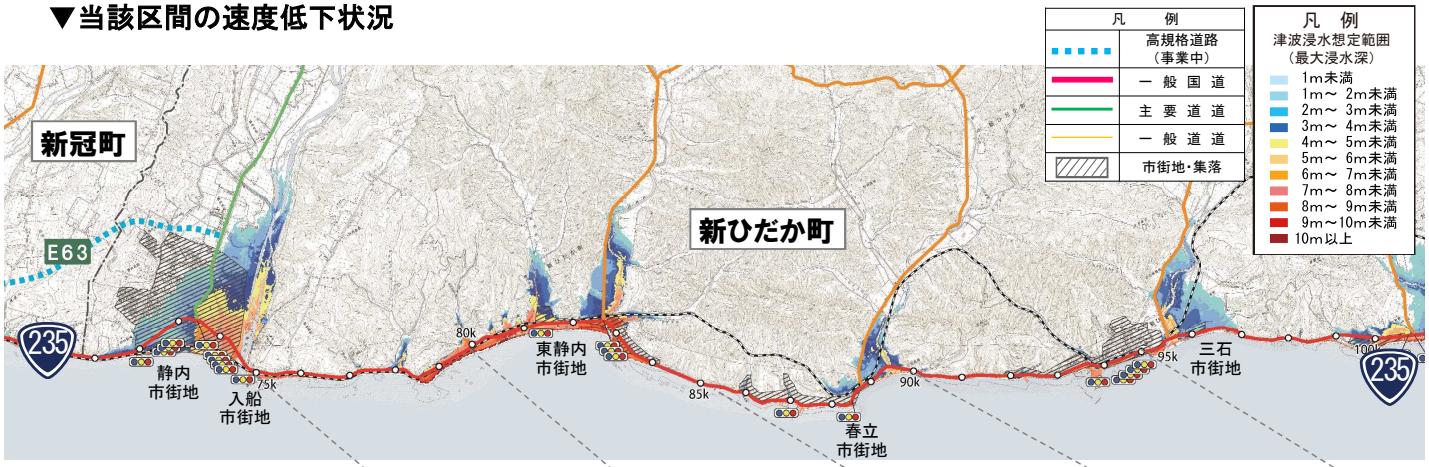
写真：室蘭開発建設部

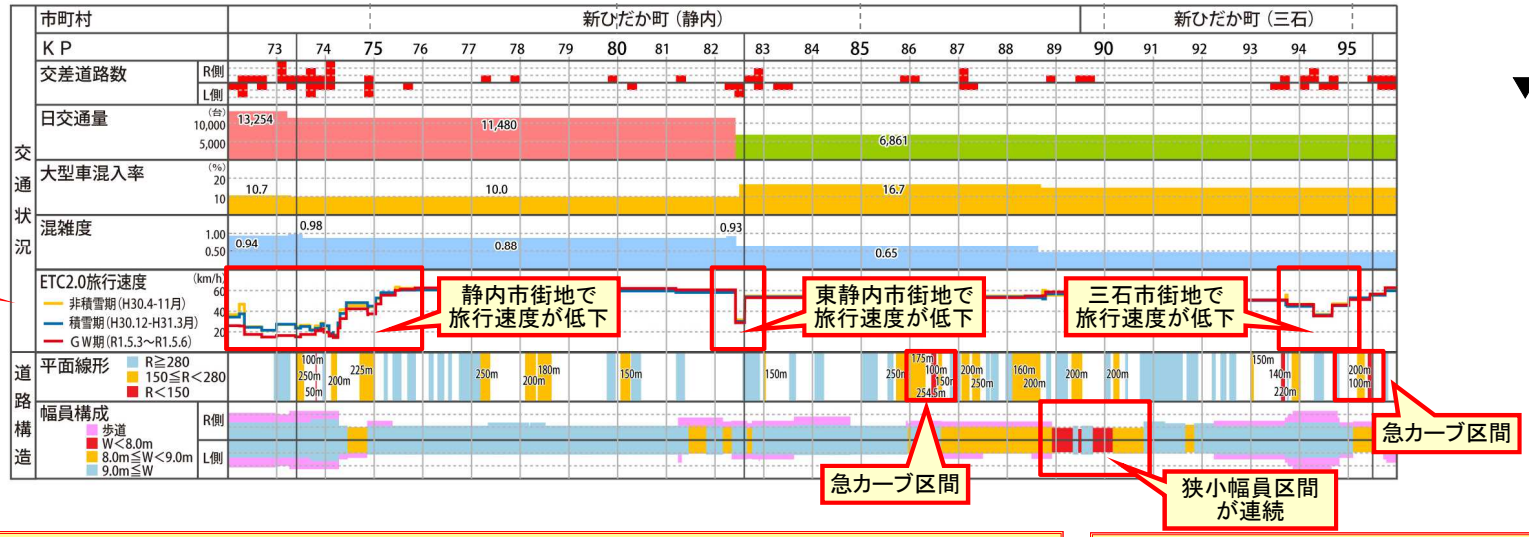
資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査、ETC2.0、道路台帳、ITARDA事故（H28-R1）、北海道開発局記者発表資料R3.7.19、室蘭開発建設部、北海道防災会議地震専門委員会資料

4-2）道路の状況と課題（走行環境）

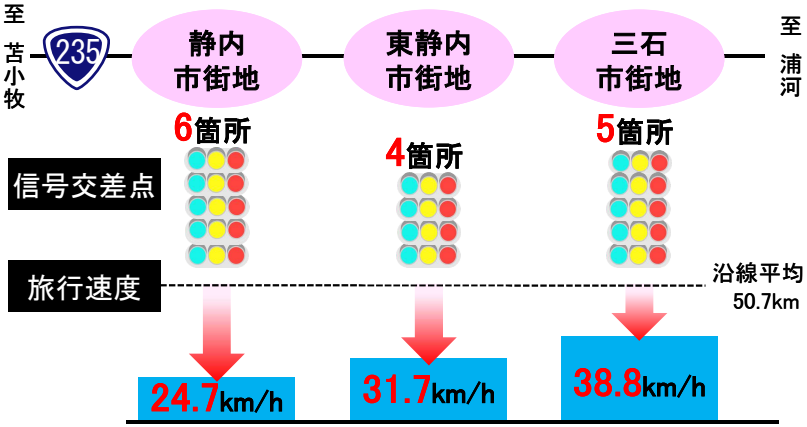
○当該区間では、信号交差点が集中する国道沿線の市街地部を中心に旅行速度が大きく低下。
○また、急カーブ区間や狭小幅員区間も点在し、軽種馬輸送や救急搬送の大きな負担となっている。

▼当該区間の速度低下状況





▼当該区間における信号交差点及び旅行速度



資料：ETC2.0データ（R2.5.3～5.6）

▼信号交差点が連続する静内市街地を走行する馬運車



写真：室蘭開発建設部

◆地域の声（北海道競走馬輸送事業協同組合）

・静内市街地は信号交差点でのストップ＆ゴーが多く、軽種馬への影響が大きいと感じている。
・春立～三石間では、道路幅が狭い上、軽トラック等の路上駐車が多く、減速走行を余儀なくされている。

◆地域の声（日高中部消防組合消防本部）

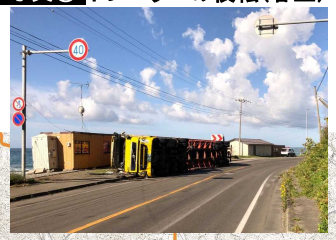
・特に静内市街地では、信号交差点でのブレーキ・加速度が患者にとって大きな負担となっている。
・静内～春立間は急カーブが多く、救急車の走行でも減速を余儀なくされており、患者への負担も大きいと感じている。

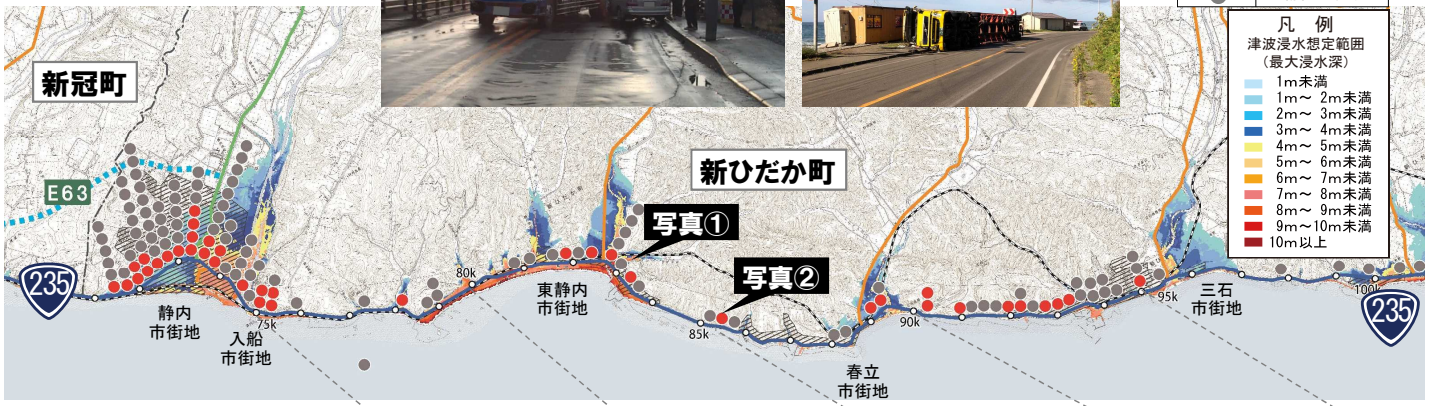
4-3） 道路の状況と課題（事故）

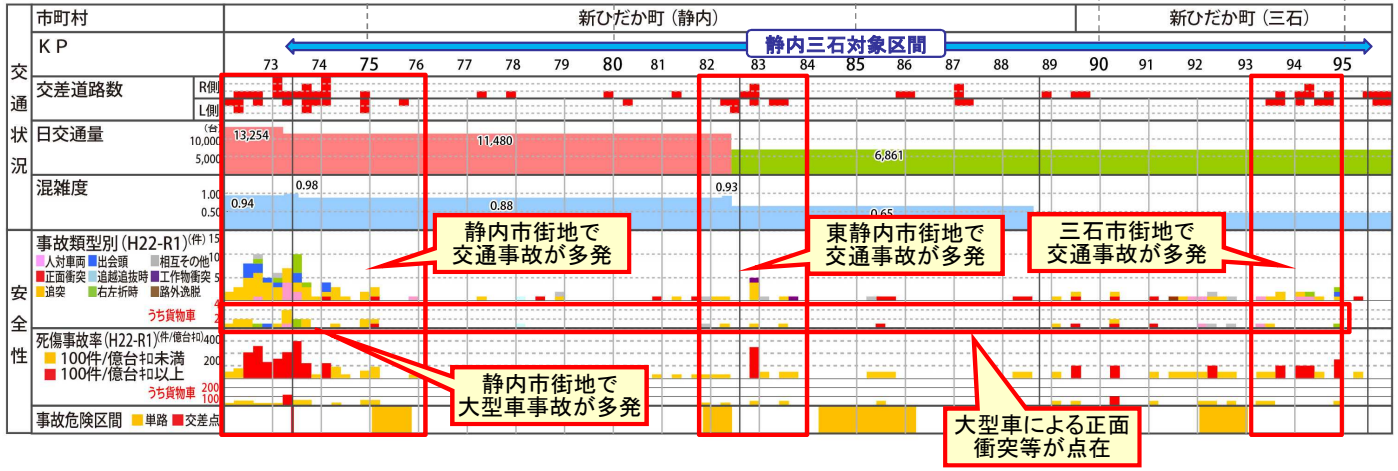
〇軽種馬や主要農水産品の出荷ルートである当該区間は、全道国道平均と比較して重大事故発生割合が高い。
〇貨物車両による正面衝突、人対車両、右左折時の事故割合も、全道国道平均と比較して約2倍と高く、事故の多くが市街地部で発生。

▼当該区間の事故発生状況



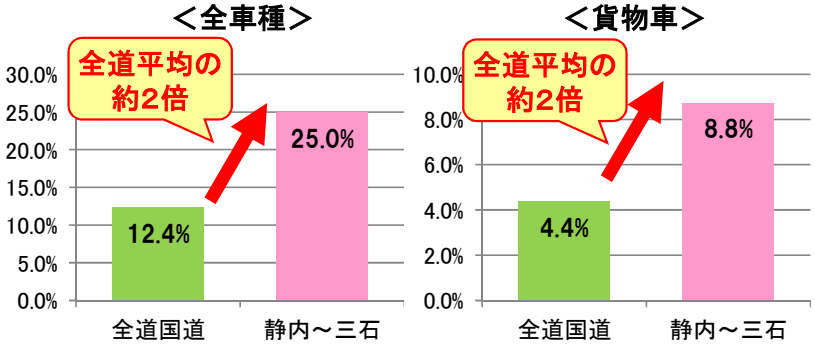






資料：平成27年度　全国道路・街路交通情勢調査、H22-H26事故マッチングデータ、H27-H30事故原票、R1イタルダデータ
※上図は北海道防災会議地震専門委員会資料の津波浸水予測範囲（R3.7）をもとに室蘭開発建設部が作成

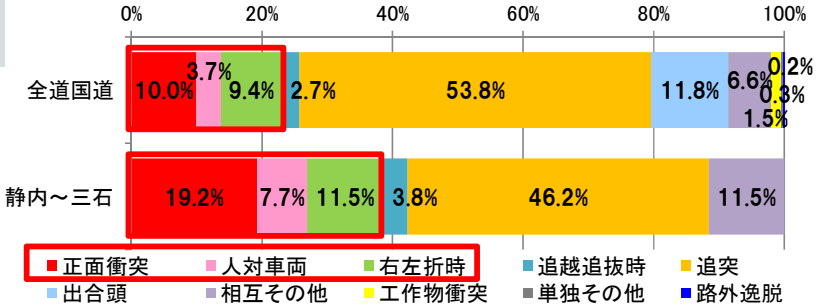
▼重大事故割合



資料：H22-H26事故マッチングデータ、H27-H30事故原票、R1イタルダデータ
※重大事故は死亡事故、重傷事故

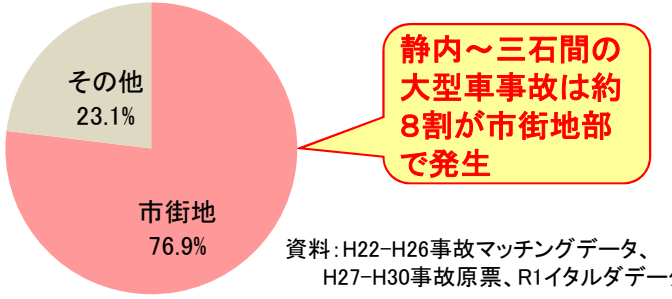
▼貨物車の事故類型別発生割合

正面衝突や人対車両の割合が全道平均の約2倍



資料：H22-H26事故マッチングデータ、H27-H30事故原票、R1イタルダデータ

▼静内～三石間における貨物車事故発生箇所割合



資料：H22-H26事故マッチングデータ、H27-H30事故原票、R1イタルダデータ

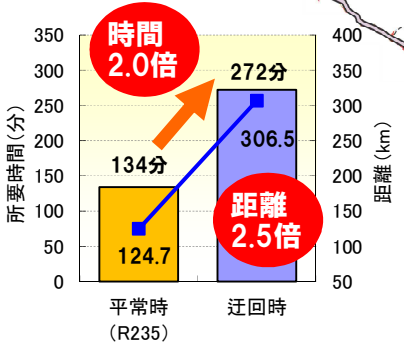
4-4）道路の状況と課題（災害）

○予想される津波浸水では、国道235号静内～三石間の約9割が津波により浸水し、通行止めによる日高東部地域への救援物資の輸送や災害復旧に多大な影響が発生するおそれ。
○国道が通行止めの際は並行する山側道道を迂回路として使用できるものの、冬期通行止区間、大型車の対面通行が困難な狭小幅員区間、防災点検要対策箇所が存在し、国道寸断時の迂回路として脆弱。
○冬期間等、道道が通行止めの場合、十勝方面へ大きく迂回する必要が生じ、迅速な救援・救助活動が困難。

▼国道235号の津波浸水による迂回（苫小牧～浦河間）



※北海道太平洋沿岸の津波浸水想定（R3.7公表）もとに室蘭開発建設部が作成

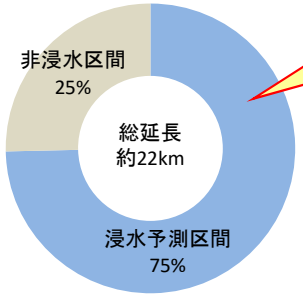


資料：平成27年度　全国道路・街路交通情勢調査

▼国道235号及び平行する道道の隘路状況



▼津波による浸水予測区間



資料：室蘭開発建設部資料

国道235号
（静内～三石）
約8割が浸水する恐れ

※北海道太平洋沿岸の津波浸水想定（R3.7公表）、国土地理院の地形図をもとに室蘭開発建設部が作成

◆地域の声（陸上自衛隊静内駐屯地）

・山側の道道は、道幅が狭く、大型車両、ブルドーザー等の重車両の走行は不可能。国道235号が寸断すると、命を救えない。よって、日高道・国道235号は救援活動の生命線。

５．課題の整理

5-1） 地域の課題と道路の課題（案）

地域の課題（案）	道路の課題（案）	テーマ
○沿線地域では国道235号が唯一の幹線道路であり、特に市街地部では物流・観光・沿道利用等の交通が集中 ○大型車事故の多くは市街地部で発生しており、重大事故や大型車事故の割合が全道国道平均に比べ高い	○当該区間は信号交差点の連続、線形不良区間の存在等により特に市街地部での旅行速度の低下や大型車による事故が発生 ○道路課題を解消し、円滑で安全に通行できる道路が必要	道路交通
○日高地域は、全国一の軽種馬産地であるが、本州のトレーニングセンターまでの距離が長く、長距離輸送が必要 ○日高地域では、花卉やいちご等、農水産品の道外出荷量が増加しているが、到着遅延による価格低下や、生産量拡大に伴う集荷時間等の確保が課題	○軽種馬や農畜水産品の輸送ルートである当該区間は、市街地部の速度低下や大型車の事故発生割合が高い ○軽種馬輸送中の振動や加減速に起因する輸送熱の発症割合が全国一高く、一定速度で走行できる輸送路の確保が必要 ※輸送熱とは、長距離輸送やストップ＆ゴーに起因する馬の呼吸器疾患の病気。肺炎を起こし、命を落とすこともある。	産業支援 （物流）
○日高地域は、襟裳岬、アポイ岳等の自然景勝地を有しており、地域の魅力発信や十勝南部との広域的な観光連携に取り組む中、地域間や空港等の交通拠点との移動距離が長く速達性に課題	○札幌市や新千歳空港等の交通拠点から遠隔に位置し、高規格幹線道路の未整備区間が多いため、交通拠点や観光地、十勝圏への速達性に課題	観光支援 （人流）
○日高地域の二次救急医療機関では、診療科目の不足により、重症患者の苫小牧市や札幌市への搬送件数が増加傾向 ○安心して暮らせる地域を形成するには苫小牧市や札幌市への速達性が課題	○苫小牧市の二次救急医療機関への救急搬送ルート上に、速度低下の大きい市街地や線形不良区間が存在 ○搬送時間を短縮し、救命率を上げるために、速達性が高く、安定走行が可能な道路が必要	暮らし （医療）
○日高地域は、今後30年以内の大規模な地震の発生確率が70%と災害リスクが高い ○対象地域のほぼ全域が津波浸水予測範囲内に位置し、救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響	○国道235号は津波による浸水が予測され、日高東部地域への災害救援物資輸送経路が寸断 ○平行する道道は、冬期通行止め区間、大型車の対面通行困難区間が存在し、迂回路としての機能が脆弱 ○津波災害時における迅速な避難及び救援・救助活動を支援し、住民の安全を確保するためにも、災害時に機能する道路ネットワークの確保が必要	災害 （防災）

5-2） 地域の課題（案）

地域・道路の状況から導かれる地域の課題（案）	
道路交通	○沿線地域では国道235号が唯一の幹線道路であり、特に市街地部では物流・観光・沿道利用等の交通が集中 ○大型車事故の多くは市街地部で発生しており、重大事故や大型車事故の割合が全道国道平均に比べ高い
産業（物流）	○日高地域は、全国一の軽種馬産地であるが、本州のトレーニングセンターまでの距離が長く、長距離輸送が必要 ○日高地域では、花卉やいちご等、農水産品の道外出荷量が増加しているが、到着遅延による価格低下や、生産量拡大に伴う集荷時間等の確保が課題
観光支援（人流）	○日高地域は、襟裳岬、アポイ岳等の自然景勝地を有しており、地域の魅力発信や十勝南部との広域的な観光連携に取り組む中、地域間や空港等の交通拠点との移動距離が長く速達性に課題
暮らし（医療）	○日高地域の二次救急医療機関では、診療科目の不足により、重症患者の苫小牧市や札幌市への搬送件数が増加傾向 ○安心して暮らせる地域を形成するには苫小牧市や札幌市への速達性が課題
災害（防災）	○日高地域は今後30年以内の大規模な地震の発生確率が70%と災害リスクが高い ○対象地域のほぼ全域が津波浸水予測範囲内に位置し、救援物資の輸送や災害復旧に大きく影響



5-3） 地域の将来像

地域の将来像

産業・経済

○産業の振興
〔第2次新ひだか町総合計画（2018-2027）〕
○基幹産業の強化
〔新ひだか町創生総合戦略（2015～2019）〕
○生産経営基盤の強化
〔第7次浦河町総合計画（2017-2026）〕
○農水産業振興対策の推進
〔第8次様似町総合計画（2011～2020）〕
○地場産業の振興
〔えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019）〕

医療

○保健・医療の充実
〔第2次新ひだか町総合計画（2018-2027）〕
○救急医療体制の整備
〔第7次浦河町総合計画（2017-2026）〕
○安全な暮らしの確保
〔浦河町地方創生総合戦略（2015-2019）〕
○救急体制の充実
〔第8次様似町総合計画（2011～2020）〕
○安心・安全なまちづくりの推進
〔えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019）〕

安全・防災

○消防・防災の推進〔第2次新ひだか町総合計画（2018-2027）〕
○安全な暮らしの確保〔新ひだか町創生総合戦略（2015-2019））〕
○防災対策の強化〔第7次浦河町総合計画（2017-2026）〕
○消防・救急体制の整備〔様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015-2019)〕
○地域防災力の向上〔えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019）〕

資料：第2次新ひだか町総合計画(2018-2027)
新ひだか町創生総合戦略(2015-2019)
第7次浦河町総合計画(2017-2026)
浦河町地方創生総合戦略(2015-2019)
第8次様似町総合計画(2011-2020)
様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015-2019)
えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015-2019)

5-4） 地域の将来像（新たな北海道総合開発計画の構成）

第1章　計画策定の意義

第１節　北海道開発の経緯

- 国全体の安定と発展に寄与するため、特別な開発政策の下、北海道開発を推進。
- 食料品等の輸出倍増、外国人観光客数100万人突破等の成長産業の萌芽。他方、経済・人口は縮小傾向。ネットワーク未整備区間、地域コミュニティ維持に係る懸念の存在。

第２節　我が国を取り巻く時代の潮流

(1) 本格的な人口減少時代の到来

(2) グローバル化の更なる進展と国際環境の変化

(3) 大規模災害等の切迫

第３節　新たな北海道総合開発計画の意義

- 北海道開発の基本的意義：北海道の資源・特性を活かして、国の課題の解決に貢献。
- 人口減少・高齢化の急速な進展等により、食や自然環境など北海道の強みを提供し、我が国全体に貢献している「生産空間」の維持が困難となるおそれ。
- 来たるべき10年間は、
  - 「生産空間のサバイバル」「地域としての生き残り」を賭けた重要な期間。
  - また、北海道新幹線開業、高速道路網の道東延伸、2020年オリパラ等を地域の飛躍の契機となし得る期間。
- これらの機会の活用によって、本格的な人口減少時代にあっても活力を失うことなく人々が豊かな暮らしを送ることのできる地域社会の先駆的形成を図る。

第2章　計画の目標

キャッチフレーズ：「世界の北海道」
ビジョン：2050年を見据え、「世界水準の価値創造空間」の形成

≪3つの目標≫

(1)人が輝く地域社会

(2)世界に目を向けた産業

(3)強靱で持続可能な国土

第3章　計画推進の基本方針

第１節　計画の期間　　2016（平成28）～2025（令和7）年度の10年間

第２節　施策の基本的な考え方

(1)北海道型地域構造の保持・形成

- 「生産空間」「市街地」「中心都市」の3層構造で人々の日常生活が営まれる「基礎圏域」を形成。
- 札幌都市圏：集積を活かして北海道全体を牽引。

(2)北海道の価値創造力の強化

- 人口減少時代にあっては、「人」こそが資源。
- 人材育成・活用の重点的実施とともに、多様な人々を引きつけ、地域の価値創造力を向上。

第３節　計画の推進方策

（１）産学官民金連携による重層的なプラットフォームの形成

- 人材育成、地域づくり等のテーマに応じて、産学官民金が連携するプラットフォームを各地域又は北海道全体で展開し、取組を持続的にマネジメント。

（２）イノベーションの先導的・積極的導入～「北海道イニシアティブ」の推進

- 技術の力で人口減をカバーし、地域の課題を旧弊にとらわれずイノベイティブに解決。

（３）戦略的な社会資本整備

- 社会資本のストック効果を最大限に発揮。
- 戦略的なインフラメンテナンスの徹底、技術開発も活用した「賢く使う」取組の充実強化。

（４）計画のマネジメント

- 「企画立案→実施→評価→改善」のマネジメントサイクル。おおむね５年後に総合的な点検。

第4章　計画の主要施策

第１節　人が輝く地域社会の形成

(1)北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

(2)北海道の価値創造力の強化に向けた多様な人材の確保・対流の促進

第２節　世界に目を向けた産業の振興

(1)農林水産業・食関連産業の振興

(2)世界水準の観光地の形成

(3)地域の強みを活かした産業の育成

・高規格幹線道路を始めとする基幹的なネットワークについては、農水産品・食料品の輸送や観光等に求められる広域的な人流・物流を支える交通体系を強化する観点から、生産地や観光地、消費地、空港・港湾等の交通拠点を結ぶ道路ネットワークの整備、ミッシングリンク解消等を推進する。

第３節　強靱で持続可能な国土の形成

(1)恵み豊かな自然と共生する持続可能な地域社会の形成

①環境と経済・社会の持続可能性の確保
②環境負荷の少ないエネルギー需給構造の実現

(2)強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成

①激甚化・多様化する災害への対応
②我が国全体の国土強靱化への貢献
③安全・安心な社会基盤の利活用

5-5） 地域の将来像（北海道総合計画（2016年度～2025年度）の構成）

北海道総合計画の構成

- 第1章　総合計画の考え方
- 第2章　北海道の「めざす姿」
- 第3章　政策展開の基本方向
- 第4章　地域づくりの基本方向
- 第5章　計画の推進

めざす姿を実現する7つの将来像

1. 地域全体で支える「子育て環境・最適地」
2. 北国で心豊かに暮らせる　安全・安心社会
3. 豊かな自然と共生する「環境推進モデル・北海道」
4. 世界に広がる“あこがれのくに”北海道ブランド
5. 北海道の産財力をいかす　地域経済の循環
6. 北の大地を力強く切り拓く　豊富な人材
7. 北海道ならではの　個性あふれる地域

政策展開の基本方向

1　生活・安心

（1）安心して子育てができる環境づくりの推進

（2）安心で質の高い医療・福祉サービス

（3）豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承

（4）環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築

（5）道民生活の安全の確保と安心の向上

（6）安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立

（7）強靭な北海道づくりとバックアップ機能の発揮

2　経済・産業

（1）農林水産業の持続的な成長

（2）本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造

（3）中小・小規模企業の振興や地域産業の活力再生

（4）新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進

（5）海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展

（6）世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進

（7）良質で安定した雇用の場づくりと産業人材の育成・確保

3　人・地域

（1）協働によるまちづくりや地域コミュニティの再構築

（2）北海道の未来を拓く人材の育成

（3）高齢者や障害のある方々、女性が活躍できる社会づくり

（4）ふるさとの歴史・文化の発信と継承

（5）世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現

（6）連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり

（7）持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備

地域づくりの基本方向

道北連携地域

・稲作、畑作、酪農、漁業、林業の活性化と農林水産資源を活用した産業振興
・多様な観光資源を活かした魅力あふれる観光振興
・風力、木質バイオマスといった新エネルギーの活用や離島振興など、自然と調和した地域づくり
・ロシア連邦サハリン州との経済交流の推進

道央広域連携地域

※日高地域に関連する事項を赤字着色

・本道経済をリードする産業の活性化と雇用の場の創出、産業人材の確保・定着
・稲作、畑作、畜産、漁業など地域の特色を活かした農林水産業の展開
・豊かな自然環境と調和した低炭素・循環型社会の形成
・温泉地やアイヌ文化、ジオパーク、産業遺産などを活かした観光振興や文化・歴史の継承・活用
・地域医療の充実や少子化対策に向けた取組の推進

道南連携地域

・北海道新幹線を活用した地域づくり
・道南特有の歴史・文化遺産といった魅力と多彩な食の提供などによる観光振興やスポーツなどによる交流人口の拡大・定着
・特色・特性を活かした農業、漁業、林業の振興と担い手の育成
・試験研究機関等と連携した産業振興による地域経済の活性化と雇用の創出

オホーツク連携地域

・豊富な農林水産資源を活かした地域産業の展開
・知床世界自然遺産や流氷などを活かした観光の展開
・モヨロ貝塚など特有の歴史・文化の継承
・スポーツ合宿誘致などを通じた交流人口の拡大

釧路・根室連携地域

・全国一の生産力を有する酪農や水産資源に恵まれた漁業など農林水産業と食品加工など関連産業の振興
・知床、釧路湿原、阿寒の3つの国立公園など雄大で魅力ある自然や文化、食などを活かした観光地づくりの推進などによる交流人口の拡大
・北方領土の早期返還に向けたた取組の推進

十勝連携地域

・国内有数の農業を中心とした力強い農林水産業の展開
・「食」や雄大な自然・景観など地域資源を活かした観光振興の推進
・再生可能エネルギーの利活用、農業や航空宇宙などの先端技術に関する取組の推進

5-6） 地域の将来像（新ひだか町、浦河町のまちづくり）

○新ひだか町及び浦河町では、農水産・観光産業等の振興、医療体制・防災体制の充実等の方針のほか、日高自動車道の整備促進に取組む方針が示されている。

新ひだか町のまちづくり基本目標

（１） 誰もが参加できるまちづくり
（２） 快適で、安全・安心な生活環境づくり
（３） 健康で、生きがいのある暮らしづくり
（４） 地域資源を活用した安定的な経済基盤づくり
（５） 町の将来を支える心豊かな人づくり
（６） 安定した行財政基盤づくり

施策の概要

■道路網の整備
・日高自動車道の建設など高速道路ネットワークの確立
■消防・防災の推進
・災害の発生に対して速やかに対応できる消防力の強化・充実
■医療体制の充実・強化
・地域医療構想を踏まえた医療従事者の確保や診療科の見直しなど診療体制の充実強化
■農業の振興
・軽種馬生産をはじめ、水稲、施設野菜、花き、黒毛和牛、酪農などの生産基盤強化への支援
・一層のブランド化の推進、より市場性の高い産地形成
■漁業の振興
・品質の安定やブランド化の推進、付加価値化による競争力の強化
■観光の振興
・グローバル化に求められる観光コンテンツの発掘・情報発信、受入体制の整備
・馬力本願プロジェクトの推進(馬による地域経済の活性、馬を通じた地域間交流等)

資料：第2次新ひだか町総合計画（2018-2027）、新ひだか町創生総合戦略（2015-2019）

浦河町のまちづくり基本目標

（１） 郷土愛に満ちた人を育てるまちづくり
（２） 健やかに暮らせるまちづくり
（３） 活力を生み出すまちづくり
（４） 快適な暮らしを支えるまちづくり
（５） みんなでつくるまちづくり

施策の概要

■医療体制の充実
・救急医療体制の整備　・地域医療体制の整備
■農業の振興
・いちご選果場の整備拡大・流通の確保
■水産業の振興
・安全・安心な水産物の安定供給と競争力の強化
■観光の振興
・地域資源の活用と外貨獲得
・観光まちおこし体制確立と人材育成
■広域道路・交通網の整備
・日高自動車道の整備に向けた関係機関への要望
■消防・救急体制の充実
・救急体制の強化
■防災対策の推進
・津波避難路の整備及び補修
・災害時協力協定に基づく広域支援体制の確立

資料：第7次浦河町総合計画（2017-2026）、浦河町地方創生総合戦略（2015-2019）

5-7） 地域の将来像（様似町、えりも町のまちづくり）

〇様似町では、農水産業のブランド化、アポイ岳ジオパークによる観光振興のほか、地域間を結ぶ広域的な道路網の整備促進に取り組む方針が示されている。
〇えりも町では、農水産業のブランド化、広域的な観光振興・医療体制の強化などの方針が示されている。

様似町のまちづくり基本目標

（１） 推進体制の確立のために
（２） 住みよい環境をつくるために
（３） 安全な生活を送るために
（４） 健康で幸せな生活をおくるために
（５） 心豊かな人間性を養うために
（６） 豊かな暮らしを生み出すために
（７） 発展の基盤づくりのために

施策の概要

■防災体制の整備
・地形的な特性を考慮した防災対策を推進
■救急体制の充実
・重篤患者はドクターヘリ等を活用し、搬送時間を短縮し、救命率の向上を図る
■母子保健の推進
・ハイリスク妊産婦・新生児が安心して必要な医療が受けられるようにする
■農業振興対策の推進
・生産馬の付加価値を高め経営の安定を図る
・夏秋取りいちご等の栽培技術の向上と品質管理に努め、ブランド化を進めるため、高設栽培施設の整備充実を図る
■水産業振興対策の推進
・サケ（銀聖）やマツカワ（王蝶）、真ツブ等のブランド化の推進等を図り、単価の維持・向上を促進
■観光振興対策の推進
・「アポイ岳ジオパーク」による観光誘致を推進
・魅力的な観光プランの開発を推進（ジオツーリズム、グリーンツーリズム）
■道路・交通網の整備・確保
・国道、道道については、幹線道路として災害に強く、安全で快適に地域間を結ぶ道路網の整備を関係機関に要望

資料：第8次様似町総合計画（2011-2020）、様似町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015-2019）

えりも町のまちづくり基本目標

（１） 活力ある地場産業をはぐくむまちづくり
（２） 健康で安心して暮らせるまちづくり
（３） 自然豊かで安全・快適なまちづくり
（４） 人を大切にし、人にやさしいまちづくり
（５） みんなが参画して進めるまちづくり

施策の概要

■漁業生産性の向上
・秋サケ「銀聖」、マツカワ「王蝶」、毛ガニ「風極毛がに」などのブランド化の推進
・地元水産物の販売促進、新たな販路の開拓の推進
■観光振興
・広域連携や地域資源を活かすなどの戦略的な観光の推進、通過型観光から着地型観光への転換、インバウンド観光の推進
■農林業
・えりも産牛肉（日本短角種・黒毛和種）のブランド化の推進
■地域医療
・西胆振や十勝など他の医療圏域との連携体制の維持強化
■防災
・えりも町地域防災計画に基づいた防災体制の強化、整備
■道路整備
・橋梁の補修・架け替えの推進
■公共交通ネットワーク
・広域連携による公共交通の確保

資料：第6期えりも町総合計画（2016-2025）、えりも町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015-2019）

６．意見聴取方法

6-1）意見聴取方法

■意見聴取の基本方針

○「地域の改善すべき課題」、「日高自動車道の調査中区間及び並行する国道235号の課題」に対し意見を伺う。

■アンケート配布範囲



■意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法				
ヒアリング	【沿線自治体及び各団体】			
		沿線自治体等	日高振興局、新ひだか町、浦河町、様似町、えりも町	インタビュー形式でのヒアリング
		各団体	商工会等（4箇所） 観光協会（4箇所） 農業協同組合（3箇所） 漁業協同組合（3箇所） 農・漁業協同組合女性部（4箇所） 森林組合（3箇所）、日高軽種馬農業協同組合 消防本部・消防組合（2箇所） 病院（3箇所） 室蘭地区トラック協会、室蘭地区バス協会 陸上自衛隊静内駐屯地 北海道競走馬輸送事業協同組合、日高獣医師会	
アンケート	【地域住民及び道路利用者】			
		地域住民	新ひだか町（全世帯：約11,000戸）、浦河町（全世帯：約6,200戸）、 様似町（全世帯：約2,000戸）、えりも町（全世帯：約2,000戸）	郵送配布 （約21,200戸）
		道路利用者	町役場および道の駅（みついし）	常設の留置きアンケート調査
			広域的な利用者	Webアンケート調査

6-2）意見聴取方法

■ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの調査項目	ヒアリング結果の活用	備考
自治体や各団体への意見聴取	・地域や道路の課題に関し、自治体や各団体への意見聴取を行い、政策目標の設定に反映する。 ・自治体や各団体との認識の整合性の確認をする。	共通

■アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの調査項目	アンケート結果の活用	備考
地域の課題	将来を見据えた改善すべき地域の課題について、回答者の考えを把握する。	第1回
道路の課題	日高自動車道の調査区間（静内～三石）及び並行する国道235号の現状について、回答者の考える課題を把握する。	
その他自由意見	その他、道路に関する課題や意見を幅広く聴取する。	
比較ルート帯（複数案）に対する意見	・ルート帯選定に当り、回答者が重要視する視点を把握する。 ・インターチェンジ設置位置（配置計画）において、回答者が重要視する視点を把握する。	今後
その他自由意見	その他、各区間に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分野で整理し、分析する。	共通

6-3） 第１回アンケート調査（案）

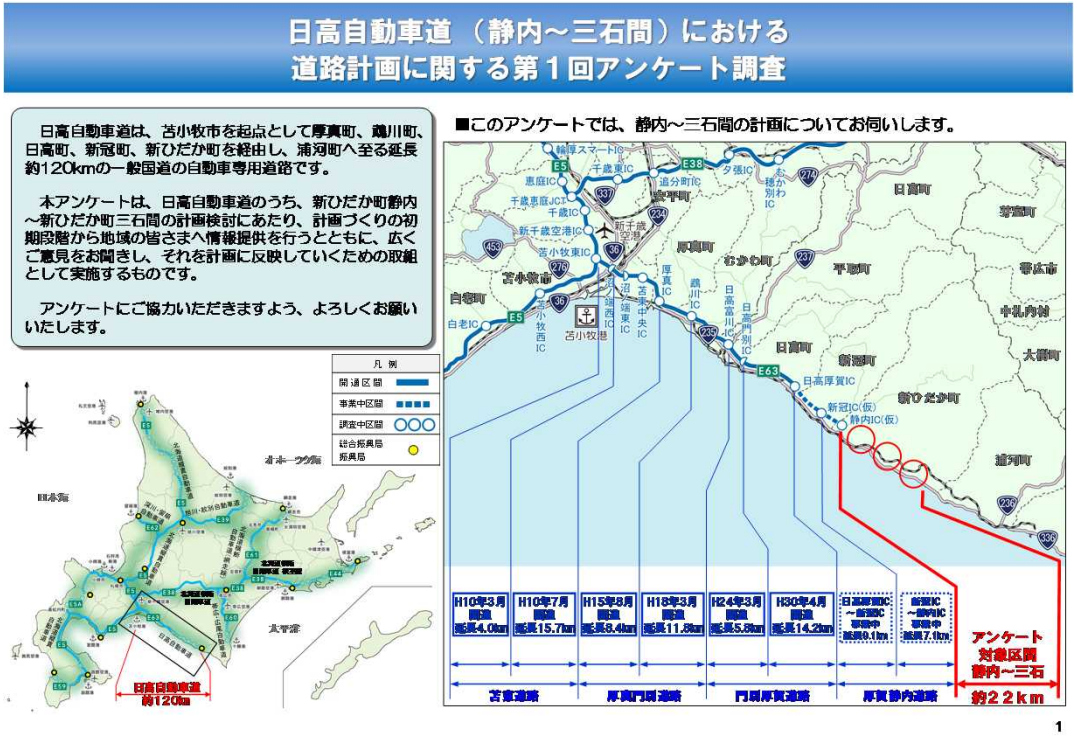
■第１回アンケートにおける調査方法および質問内容

①調査概要

➡ 本調査の趣旨・調査対象箇所について説明

②日高地域の概況

➡ 地域の概況と課題について説明



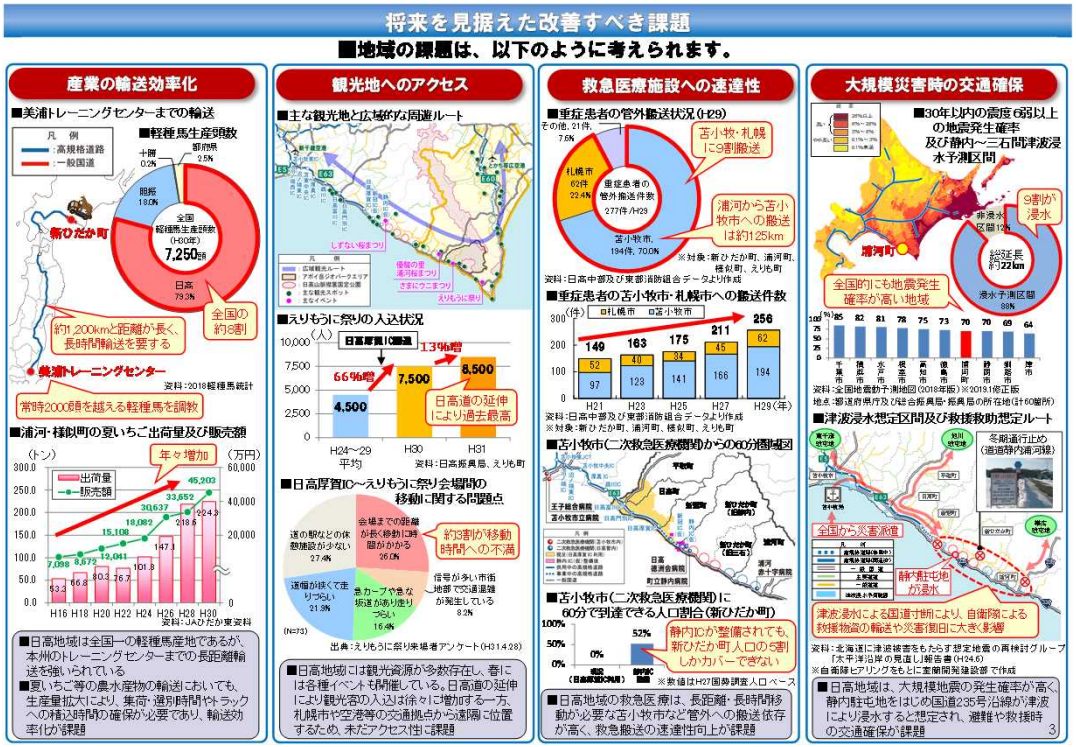


6-4） 第1回アンケート調査（案）

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

③将来を見据えた改善すべき課題

➡ 将来を見据えた改善すべき地域の課題の提示



➡ 対象路線の道路課題の提示



6-5）第1回アンケート調査(案)

■質問内容・解答欄

問1　日高地域の将来を見据えた地域の課題についてどう思いますか？

次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

項　目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A　農畜水産物の輸送に時間がかかる	1	2	3	4	5
B　空港等の交通拠点から観光地や観光地間の移動に時間がかかる	1	2	3	4	5
C　苫小牧市等の二次救急医療機関への搬送に時間がかかる	1	2	3	4	5
D　市街地部等で事故の危険性が高い	1	2	3	4	5
E　大規模地震の発生確率が高く、津波浸水の影響により、緊急輸送や支援の妨げになる	1	2	3	4	5

上記A～E以外で、あなたが課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

問2　国道235号静内～三石間に必要な道路機能はどのような道路だと思いますか？

次のA～Eについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

項　目	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A　農畜水産物の輸送時間を短縮できる道路	1	2	3	4	5
B　空港等の交通拠点から観光地や観光地間を速くスムーズに移動可能な道路	1	2	3	4	5
C　苫小牧市等の二次救急医療機関へ速くスムーズに搬送可能な道路	1	2	3	4	5
D　事故が少なく安心して走れる道路	1	2	3	4	5
E　津波災害時にも機能する道路	1	2	3	4	5

上記A～E以外で、あなたが必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

問3　その他、国道235号　静内～三石間について、ご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。

6-6）第1回アンケート調査(案)

・回答は同封の郵便はがきにご記入ください。
・回答用の郵便はがきは、切手を貼らずに最寄りの郵便ポストへ投函して下さい。
　なお投函は、令和●年●月●日（●）までにお願いします。
・インターネットによる回答も可能になっておりますので、下記アドレスからアクセス願います。
　日高自動車道（静内～三石間）道路計画に関する意見聴取　Ｗｅｂ回答用ページ
　URL　http://www.hkd.mlit.go.jp/・・・
　※室蘭開発建設部ホームページからもアクセス可能です。

QR
コード

アンケートの記入例

郵便はがき

料金受取人払

室蘭局承認

●●

差出有効期間
令和元年●月
●日まで
（切手不要）

0 5 1 - 8 7 9 0

北海道　室蘭市　入江町１番地１４
室蘭開発建設部　道路計画課

日高自動車道（静内～三石間）
道路計画に関する意見聴取係　行

■あなた自身のことについて（記入または該当する番号に○）

住所　〒000-0000　北海道　日高　市・郡　新ひだか　町・村

性別　①男性　②女性　年齢：50歳代

職業　①会社員　②公務員　③農業　④漁業　⑤林業　⑥観光業
⑦学生　⑧主婦　⑨物流・輸送　⑩商業　⑪工業
⑫無職　⑬その他（　　）

■自動車を運転する頻度を教えてください（該当する1つに○）
①毎日　②週数回　③月数回　④ほとんど運転しない　⑤運転しない

■国道235号静内～三石間の利用頻度を教えてください(該当する1つに○)
①毎日　②週数回　③月数回　④あまり利用しない　⑤利用したことがない

■静内～三石間の主な利用目的を教えてください（該当する全てに○）
①通勤・通学　②通院　③家事・買物　④仕事(営業・運送等)
⑤観光・レジャー　⑥その他（　　）

日高自動車道(静内～三石間)第1回アンケート 回答欄

質問1. 日高地域の将来を見据えた地域課題について

1-1 以下のA～Eの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A 物流の輸送時間	①	2	3	4	5
B 観光の移動時間	1	②	3	4	5
C 救急搬送時間	1	2	3	④	5
D 事故の危険性	1	②	3	4	5
E 大規模地震・津波の影響	1	2	③	4	5

1-2 上記以外で課題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

・・・・・・・・・・・・・

質問2. 静内～三石間に必要な道路機能について

2-1 以下のA～Eの項目について、該当するもの1つに○をつけてください

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
A 輸送時間の短縮	①	2	3	4	5
B 移動時間の短縮	1	②	3	4	5
C 救急搬送時間の短縮	1	2	③	4	5
D 道路の安全性	1	②	3	4	5
E 災害時の機能	1	2	3	④	5

2-2 上記以外で必要だと思うことがあれば、ご自由にお書きください

・・・・・・・・・・・・・

質問3. その他のご意見

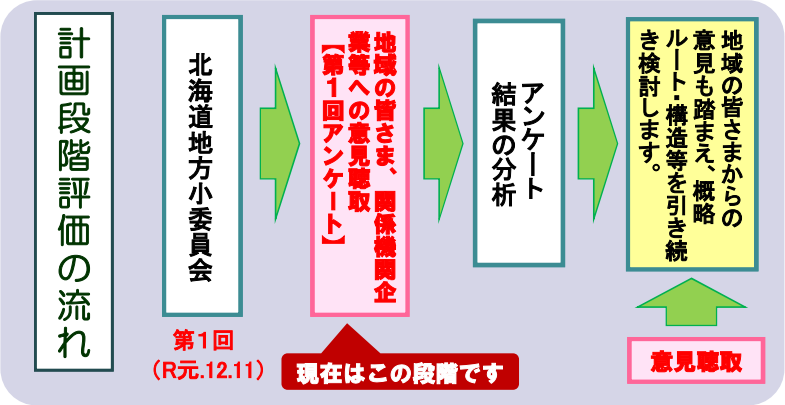
静内～三石間について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書き下さい

・・・・・・・・・・・・・

■アンケートは「計画段階評価」審議の参考意見となります。

国土交通省では、道路事業の透明性・効率性を高めるため、計画段階評価の取組を導入しています。

これは、道路の整備方針を地域の声（地域の皆様、道路利用者、関係団体等）を聞きながら、第三者委員会によって審議するものです。



アンケートについてのお問い合わせ先

<調査主体>
北海道開発局　室蘭開発建設設部　道路計画課
日高自動車道（静内～三石間）
道路計画に関する意見聴取係

国土交通省

〒051-8524　室蘭市入江町1番地14
電話0143-25-7046



安全で快適な地域づくりのために
みなさまのご意見をお待ちしております。

本調査は、日高地域の道路計画について地域にお住まいの皆さまや道路利用者のご意見を広くお聞きすることを目的とするものです。
そのため、回答用の郵便はがきに記入されたことは、この目的以外には使用いたしません。
回答いただいた個人に関する情報は、本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。（法令により開示を求められた場合を除きます）